



# 東京歯科大学広報

## 第46回東歯祭 フェスティバル2014 開催



2014年10・11月  
**269号**

### 本号の主な内容

- ・ 第46回東歯祭 フェスティバル2014 開催 ..... 1
- ・ 水道橋校舎本館西棟建設工事について ..... 7
- ・ 高江洲義矩名誉教授が平成26年秋の叙勲において  
瑞宝中綬章を受章 ..... 24
- ・ 才藤純一 元市川総合病院臨床検査技師長が平成26年秋の  
叙勲において瑞宝双光章を受章 ..... 24
- ・ 平成26年度文部科学省医学教育等関係業務功労者表彰を受賞 ..... 25
- ・ 平成26年度科学研究費補助金決定 ..... 33

■第46回東歯祭 フェスティバル2014 開催

第46回東歯祭は、平成26年10月25日(土)、26日(日)に水道橋校舎新館において開催された。

1日目は、血脇記念ホールにおいてM.L.S部、管弦楽部、Big Band Jazz部、ダンス部のライブ並びに演劇部による公演が行われ、それぞれの部が観客を魅了した。また、展示部門は水道橋校舎新館第3実習講義室において美術部、写真部、コンピュータ部、国際医療研究会、歯科学生交流会から「延世大学校歯科大学との学生交流」が展示した。

2日目は、東歯祭実行委員が企画した「部活対抗女装コンテスト2014」が盛大に開催され大変な盛り上がりを見せた。本来の東歯祭らしく各部和

気凛々のなか女装に気合も入り、クラブの代表が舞台に登場するたびに客席から声援と笑い声が上がっていた。



M.L.S部による演奏：平成26年10月25日(土)、水道橋校舎新館血脇記念ホール



演劇部の公演：平成26年10月25日(土)、水道橋校舎新館血脇記念ホール



茶道部による茶会の様子：平成26年10月25日(土)、水道橋校舎新館8階ラウンジ



管弦楽部の演奏：平成26年10月25日(土)、水道橋校舎新館血脇記念ホール



東歯祭を盛り上げた実行委員メンバー：平成26年10月26日(日)、水道橋校舎新館血脇記念ホール

■第46回歯学体成績報告会・第46回東歯祭後夜祭開催

平成26年10月26日(日)の東歯祭終了後、午後6時より水道橋校舎本館大会議室において、第46回歯学体成績報告会と第46回東歯祭フェスティバル2014後夜祭が併催する形で実施された。文化部系、運動部系の部が一堂に参加した祝宴は盛

り上がり、歯学体で好成績を上げたクラブに学長賞、父兄会長賞、同窓会長賞が授与された。

また、「部活対抗女装コンテスト2014」で入賞したクラブに金一封、参加・協力したクラブにも同窓会長賞が授与され、盛会裏に祝宴を閉じた。



各クラブからの歯学体成績報告：平成26年10月26日（日）、水道橋校舎本館大会議室



歯学体の成績を報告する歯学体評議員の小池将人君（4年）：平成26年10月26日（日）、水道橋校舎本館大会議室



井出吉信学長（右）から金一封を受け取る学生（左）：平成26年10月26日（日）、水道橋校舎本館大会議室



矢崎秀昭同窓会会長（右）から金一封を受け取る学生（左）：平成26年10月26日（日）、水道橋校舎本館大会議室



荻原俊美父兄会会長（右）から金一封を受け取る学生（左）：平成26年10月26日（日）、水道橋校舎本館大会議室



歯学体成績報告会・東歯祭後夜祭での記念撮影：平成26年10月26日（日）、水道橋校舎本館大会議室



歯学体成績報告会・東歯祭後夜祭での記念撮影：平成26年10月26日（日）、水道橋校舎本館大会議室



歯学体成績報告会・東歯祭後夜祭での記念撮影：平成26年10月26日（日）、水道橋校舎本館大会議室

## ■教授就任のご挨拶



市川総合病院神経内科  
村松和浩

このたび、教授会のご推挙により、平成26年11月1日付けで東京歯科大学市川総合病院神経内科教授、同部長を拜命いたしました。謹んでご挨拶申し上げます。

私は昭和59年に慶應義塾大学医学部を卒業し、同大学院へ入学、後藤文男名誉教授のご指導のもと、神経内科の臨床・脳循環代謝領域の研究を中心に研鑽を積み、米国ベイラー医科大学へ留学、帰国後は慶應義塾大学病院で神経内科医長を務めました。平成9年に日本鋼管病院に出向し、水野嘉夫理事長(当時日本鋼管病院院長)の下で勤務、平成19年より済生会横浜市東部病院、神経

内科部長、認知症医療疾患センター長を務めておりました。

平成26年9月末日で前東京歯科大学市川総合病院神経内科初代教授野川茂先生の東海大学付属八王子病院への転出に際し、慶應義塾大学神経内科鈴木則宏教授より東京歯科大学教授会にご推薦いただきました。教授会の皆様、鈴木教授に心より御礼申し上げます。身に余る光栄なことと存じております。

日本は既に超高齢化社会に突入しており、高齢化とともに急速に増加する神経内科領域の疾患である脳血管障害、認知症、パーキンソン病、てんかんなどの診療に対する社会的要請は益々高まっています。これらの疾患の診療は、地域連携、ネットワークを構築して対処していかなければ今後成り立たなくなります。地域の基幹病院である市川総合病院の神経内科は、これらの疾患領域でリーダーシップを取り、高齢者が地域で安心して過ごせる医療体制を目指します。

今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



生物学研究室  
中村弘明

このたび教授会のご推挙により、平成26年11月1日付けで生物学研究室の教授に就任いたしました。ご指導頂いた多くの方々から心から感謝いたします。微力ではございますが、教育と研究に誠実に対処して行く所存です。今後とも、よろしくお願いいたします。

教養科目の中でも生物学は医学の基礎となる重要な科目です。日々、進歩発展が伝えられて参りますので、情報収集を怠らず、新鮮で魅力のある授業ができるよう努めて参ります。

近年、初年次教育の重要性が認められてきました。生物学でも初年次教育を念頭に置き、高校から大学へのスムーズな移行ができるよう心がけて

参ります。また、きめ細かい補習授業を行い、質問に来る学生を大切に、早い時期での苦手克服が図れるよう支援したいと考えています。

都市化やIT化に伴い、「生命」に対する感覚が希薄な学生が増えてきているように感じられます。医療人を目指す者にとって、生命に対する繊細な感受性は不可欠ですので、実習を含めて、「生命の不思議」「生と死」等についても考える機会をつくり、「生命の尊厳」「自然への感謝」の気持ちで醸成されるような指導に努めたいと思います。

研究分野である「比較免疫学」にも微力を注ぎ、学生に研究のおもしろさが幾らかでも伝えられたら幸いと思っております。退職までそれほど多くの時間が残されておりませんので、後継者へのバトンタッチも視野に入れて、誠実に対処してまいります。

## ■教授就任のご挨拶



生物学研究室  
橋本 貞 充

平成26年11月1日付けで、教授会のご推挙により生物学教授の辞令を戴きました。

教養の生物学に異動して感じるのは、若い学生たちのもつ多様性とその可能性です。さまざまな個性がぶつかり合うサイカチの校舎で、自分は歯科に向いているのだろうか？という漠然とした疑問。他人とうまく関われないこと、本当にやりたいことが見つからないこと。さまざまな不安や悩みを抱えた学生たちがいます。それでも、そんな彼らが、上の学年へと進級していくに連れ、自分に自信を持ち、だんだんと引き締まった顔つきになっていくのを見る時、初年度の教育がいかに大切であるかを感じます。

いくつもの講義を受け持つ中で、どんな一言がその学生の興味を引き出すかは分かりません。だからこそ、講義はできるだけ一方通行のものでは

なく、双方向性的な講義を、とは思うものの、なかなか相手の気持ちをつかむのは難しい。それでも、ひとつひとつの専門用語の持つ意味を繰り返し伝え、自分で考え、理解し、判断するためのきっかけとなるようなイメージや身近なたとえ話などをつかって、できるだけ具体的に分かり易く語りかけることを意識しながら、日々、教壇という小さな舞台の上に立っています。

もし、そのなかで、「考えること」、「勉強すること」、「サイエンスをすること」の楽しさや素晴らしさに気づき、そして、「いのち」とは何かを考えてもらえるならば、これから自分たちが進んでいく、歯科の広く多様なフィールドと、歯科医療が持つ可能性について、少しでも感じてもらうことができるのならば。全員ではないにしても、何人かの学生の多様な感受性のレセプターに反応する何かを投げかけられるような関わりができるとするならば。私が母校の東京歯科大学で、生物学の教授という立場をいただいた事の意味があるのだと信じ、これからも自分がやるべき事をやっていくつもりでおります。

初心を忘れず、東京歯科大学の次の世代を担う後進の育成に、力を注いで参りますので、今後とも、忌憚のないお言葉を以てご指導くださいますよう、お願いいたします。



市川総合病院呼吸器内科  
寺嶋 毅

この度、教授会のご推薦により平成26年11月1日付けをもちまして、東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科教授を拝命いたしました。市川総合病院は歯科大学の総合病院としては、病床数570、24診療科と他に類をみない規模であり、地域がん診療連携拠点病院として口腔がんセンターを有しています。がん患者の治療や高齢者の歯科治療においては、全身管理が重要であり、医科の協力が欠かせません。嚥下機能の低下した高齢者

やがん治療中の口内炎においては、口腔ケアなど歯科の果たす役割が大きくなっています。歯科と医科の連携がますます重要になっている中で、まだまだお互いのニーズや実情の理解には不十分な部分があります。医科の医師が医科歯科連携の重要性、歯科のサポートの重要性を今まで以上に認識するように努めること、歯科の医師に、医科が何を必要としているか、何を求めているのかをよく理解してもらうことなど、ニーズを伝え、連携がうまく機能する手助けも私の役割であると考えています。医科に必要とされる、ともに全身を診ることに上手に参加できる歯科医師を育成することも歯科大学の教育・研修病院である市川総合病院の役割であると考えています。各々の専門性を生かした医科歯科連携、チーム医療を成功させ、そのメリットを全国に発信して、この領域でリーダーシップをとっていくことが、当院の使命で

す。本学は慶應義塾大学医学部と連携協定を締結しています。慶應大学医学部の関連病院に市川総合病院での活動をアピールし、関連病院に歯科医師が常在するようになればよいと考えています。

地域の中核病院としての役割も担っており、地域医療支援病院を目指しています。呼吸器疾患が増加する中で、近隣医療機関から紹介患者を受け入れ質の高い医療を提供するなど、地域の期待にこたえていきたいと考えています。診断や治療が困難な症例、重症症例、合併症が多く複数の診療科・専門医の協力が必要な症例に携わることが多くなります。専門医と専修医、研修医がうまくリンクして、多くの症例に携わることで診療科と病院が活発になり、時には検討を加えて研究に結びつけること、楽しく充実した医療、研修、研究が

できる環境を作り、指導、サポートしていきたいと考えております。

故井上 裕理事長先生は、「得意淡然、失意泰然（得意の時はあっさりと、失意の時はどっしりと）」という言葉座右の銘にしておられました。日々の医療や研究も、順調にすすんでいる時は慢心になりがちですが、有頂天にならないように、逆に、思ったようにいかない時にも、平常心で辛抱強く耐えることができればと思います。教授を拝命した今は得意の時ではありますが、得意淡然を心がけ、淡々と日々の臨床に謙虚に励んでいく所存です。そして微力ながらも、東京歯科大学および市川総合病院の発展のために努力していきたいと考えております。今後とも、御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## ■准教授就任のご挨拶



生理学講座  
澁川 義 幸

平成26年10月1日付で、本学生理学講座の准教授を拝命いたしました澁川義幸です。私は平成7年に本学を卒業し、同年助手として生理学講座に入局、鈴木 隆前教授、田崎雅和教授に師事してまいりました。平成15年より2年間、カルガリー大学医学部・生体物理学講座への研究留学の機会に恵まれ、細胞膜トランスポーターの構造機能関連研究について研鑽を積ませていただきました。これまでの私の研究は、象牙質形成細胞である象牙芽細胞の生理学的特性に関するもので、細胞膜イオンチャネルによる細胞膜シグナル伝達系や細胞内カルシウムイオンシグナルの解析を中心

に行ってまいりました。また、当講座の長年の研究テーマである感覚生理学研究を引き継ぎ、歯痛（象牙質痛）の発生メカニズムの解析も行っております。現在では、これらの研究に加え、三叉神経領域の侵害受容機構とその調節機序や、唾液腺における水・タンパク質輸送とイオン再吸収メカニズム、時計遺伝子発現調節の分子メカニズムなど多岐にわたる研究を行っております。

教育では、生理学・口腔生理学教育を担当しております。口腔機能のみならず全身の生体機能について、分子機構から生体システムまで、広い視野で人体の正常機能を理解できるよう教育を行っております。今後もさらに盤石な教育体制を整えていきたいと思っております。

微力ではございますが、より高度な歯科医療を実践できる歯科医師の養成と、より高度な研究の推進、より高度な歯科医学研究者の養成につとめ、本学の発展に少しでも寄与できるよう努めてまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 水道橋校舎本館西棟建設工事について

平成26年10月29日(水)午前11時より、水道橋校舎本館特別会議室において、東京歯科大学水道橋校舎本館西棟建設事業 工事請負契約締結式が行われた。まず始めに、発注者を代表して水野嘉夫理事長と井出吉信学長、そして設計監理者の株式会社日本設計田代太一副社長、施工者の清水建設株式会社今木繁行東京支店長より挨拶があった。その後、水野理事長と今木東京支店長により契約書の調印が行われた。

また、平成26年11月19日(水)大安吉日の午前11時より、三崎稻荷神社において、東京歯科大学水道橋校舎本館西棟建設工事安全祈願祭が挙

られた。水野理事長、井出学長、矢崎秀昭同窓会会長以下大学関係者、株式会社日本設計関係者、清水建設株式会社関係者の参列の下、宮司による神事が厳粛に執り行われ、次いで水野理事長、井出学長、その他の代表により玉串が神前に奉奠され、式典は無事終了した。

所を改め、水道橋校舎本館特別会議室において直会が開催され、水野理事長、井出学長、株式会社日本設計田代副社長、清水建設株式会社今木東京支店長の挨拶の後、出席者一同工事の安全と本計画の成功を祈った。和やかな歓談の後、矢崎同窓会会長による手締めによってお開きとなった。



調印式に臨む水野理事長(左)と今木東京支店長(右)：平成26年10月29日(水)、水道橋校舎本館特別会議室



西棟建設工事安全祈願祭にて玉串を奉奠する水野理事長：平成26年11月19日(水)、三崎稻荷神社・千代田区



西棟完成予想図外観

## 学内ニュース

### ■市川総合病院平成26年度防災訓練実施

市川総合病院では平成26年9月4日(木)午後3時より、建物設備等の点検及び自衛消防訓練(通報・避難等訓練)が実施された。

火災発生を想定した屋内消火栓取り扱い訓練および通報・避難訓練が6階西病棟トイレを発火場所として行われた。患者の安全を確保するための初期消火活動から実際に模擬患者等を設定して実践さながらの避難・誘導訓練が行われた。

午後3時40分からは、栄養管理室前広場において、消火器および屋内消火栓取り扱い訓練が市川市西消防署員の指導により行われ、続いて午後4時15分から大規模な地震が発生した際の防災センターへの通報訓練が行われ、最後に消防署員より講評をいただいて終了となった。



屋内消火栓取り扱い訓練：平成26年9月4日(木)、市川総合病院栄養管理室前広場



病棟における模擬患者搬送風景：平成26年9月4日(木)、市川総合病院6階西病棟

### ■水道橋病院医療連携報告会開催

水道橋病院では、地域医療連携に関わる紹介医の先生方と密接な医療連携を推進し、日常取り組んでいる臨床についての相互理解を深めること

を目的としてこれまで「症例報告会」と称する研修会を過去12年間にわたり開催してきた。今年度は水道橋病院の改組を踏まえて「医療連携報告会」と名称を変え、平成26年10月2日(木)午後7時より、水道橋校舎新館血協記念ホールにおいて開催された。

「水道橋病院の新たなステージ～健康長寿を達成するために～」というメインテーマのもと、まず矢島安朝水道橋病院長より「歯科医療は国民の健康長寿を延ばす医療」を念頭におき努力していく決意が表明された。その後、3つの講演を行った。第1講演は、柴原孝彦口腔外科学講座主任教授による「口腔外科now～次世代病診連携システムを目指して～」で、口腔外科の初診や全身麻酔症例についての内訳などを紹介し、紹介医の先生方のご協力を得ながら名実ともに本邦をリードする高い目標を立てて邁進していく決意を述べた。また、Webを利用した口腔腫瘍、粘膜疾患サポート体制「ナビシステム」の構築についての紹介を行った。このシステムは日常臨床で一般開業歯科医師の口腔粘膜に対する不安・疑問を払拭するシステムで、各疑問に対して口腔外科専門医がリアルタイムに対応する画期的なシステムであるとのことであった。第2講演は、櫻井 薫有床義歯補綴学講座主任教授より「超高齢社会に対応した補綴処置」と題した講演であった。咬合支持崩壊につながる歯の喪失原因を患者ごとに考慮し対応していく必要性を改めて述べた。咬合支持崩壊は咀嚼障害、発音障害、審美障害に加えて栄養不足や低栄養のリスクを増し、全身疾患の危険率が増加すること、高齢者の粘膜支持の有床義歯におけるtissue conditioning、印象採得法、新しい床用材料、義歯のコーティングなどが紹介された。第3演題は石田 瞭摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科准教授より「水道橋病院で開始した訪問歯科診療について」と題し、今年度より新たに水道橋病院で開始した診療科や開業医の先生方を対象とした研修システムの紹介が行われた。また、診療の中で誤嚥リスクを早期に判断し、高齢患者へのアドバイスや嚥下体操を通じた日常臨床へのアドバイスも行われた。

参加者からのアンケートからは「レベルの高い



診療を行っていることをアピールしていただき、今後安心して患者を紹介できると実感した」、「臨床においての疑問点や困ったことを解り易く教えていただいた」等の声が多く寄せられた。また、各診療科によるポスター発表が17演題、および協賛業者による展示も行われ、盛会のうちに終了した。



開会の挨拶を述べる矢島水道橋病院長：平成26年10月2日（木）、水道橋校舎新館血協記念ホール

### ■第32回カリキュラム研修ワークショップ開催

平成26年10月4日（土）・5日（日）の2日間、水道橋校舎本館13階において、第32回カリキュラム研修ワークショップが開催された。本ワークショップは、歯科医師臨床研修制度における「歯科医師の臨床研修に係る指導歯科医講習会の開催指針」に則り、指導歯科医講習会としての認定を受け、一般財団法人歯科医療振興財団と共同開催したものである。

今回は、本学の専任教員および全国の歯科医院に勤務する歯科医師の合計40名が受講した。ワークショップは9つのセッションで構成され、講義、5グループに分かれての討議・発表を通じて、歯科医師臨床研修制度の概要、臨床研修の問題点の



グループ討議風景：平成26年10月4日（土）：水道橋校舎本館13階

抽出と対応策の検討、段階的なカリキュラムの計画・立案等を習得し、指導医に必要なカリキュラム開発能力ならびに研修歯科医を養成する指導力の向上を目指した。

最後に、受講者全員に東京歯科大学学長、歯科医療振興財団理事長および厚生労働省医政局長連名の修了証が授与され、2日間の日程を無事終了した。

### ■第298回東京歯科大学学会・総会開催

平成26年10月18日（土）・19日（日）の両日にわたり、水道橋校舎新館において第298回東京歯科大学学会・総会が開催された。

第1日目の学術発表は、水道橋校舎新館の第1、第2講義室を会場として口演発表が、第2実習講義室を会場として示説発表がなされた。今回発表された口演は36題、示説は7題であった。午後には血協記念ホールを会場として、今年度末に定年を迎えられる4名の教授のうち2名による特別講演が行われた。

第2日目は血協記念ホールを会場として、シンポジウムと特別講演が行われた。午前中は「超高齢社会における歯科診療を考える」をテーマとしたシンポジウムが行われ、有床義歯補綴学講座の櫻井 薫教授を座長として3名の招聘演者による講演が行われた。午後からは第1日目に引き続き2名の教授による特別講演が行われた。

シンポジウムと特別講演の間で、水道橋校舎新館第2講義室において「平成26年度東京歯科大学学会評議員会ならびに総会」が開催された。この中で、東京歯科大学学会会則により川口 充名誉教授、小田 豊名誉教授、松久保 隆名誉教授、水口 清名誉教授に名誉会員を委嘱することが報告された。

また、第2実習講義室では第1日目は9商社、第2日目は5商社の参加による商品展示が行われた。

<特別講演>

第1日目

1. 血糖コントロール指標と国際標準化

武井 泉 教授

(東京歯科大学市川総合病院内科 糖尿病・内分泌センター長)

2. 「生体多機能化インプラント」を目指して

吉成正雄 教授

(東京歯科大学口腔科学研究センター・歯科理工学講座)

第2日目

3. 口腔外科病理診断学

- 開かれた病理へ Sherlock Holmes like oral health care の実践 -

田中陽一 教授

(東京歯科大学市川総合病院臨床検査科病理室)

4. スポーツパフォーマンスに咬合の関与は

あるのか!

石上恵一 教授

(東京歯科大学スポーツ歯学研究室)

<シンポジウム>

- 超高齢社会における歯科診療を考える -

座 長：櫻井 薫

(東京歯科大学有床義歯補綴学講座教授)

演 者：

「高齢社会が抱える諸問題-医学・医療経済の視点から」

井藤英喜(地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターセンター長)

「認知症高齢者の口を支える視点」

平野浩彦(地方独立行政法人東京都健康長寿医



東京歯科大学学会評議員会・総会にて挨拶をする井出吉信学会長：平成26年10月19日(日)、水道橋校舎新館第2講義室

療センター研究所専門副部長)

「超高齢社会におけるかかりつけ歯科医が担う口腔機能管理」

片倉 朗(東京歯科大学オーラルメディスン・口腔外科学講座教授)

■平成26年度第2回水道橋病院教職員研修会開催

平成26年10月23日(木)午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、平成26年度第2回水道橋病院教職員研修会が開催された。

今回は、「本当に怖い針刺しの話」として、水道橋病院感染予防対策チーム委員会委員長である笠原清弘講師(口腔外科学講座)による講演があった。講演では、当院における過去数年間の針刺し件数の推移、職種・場面別の発生件数等について説明し、受傷事故の危険性、感染対策の重要性について解説を行った。また、水道橋病院医療安全管理マニュアルの「針刺し・粘膜血液暴露事故発生時タイムライン」、ならびに「針刺し・粘膜血液暴露汚染事故対応フローチャート」についても詳細な説明が行われ、全教職員への周知が図られた。

当日は多くの教職員が参加し、スライドとDVDとを織り交ぜた内容に一同真剣に耳を傾けていた。針刺し事故発生の際には時間が勝負となることも強調され、医療安全の向上に繋がる大変有意義な研修会となった。



講演する笠原講師：平成26年10月23日(木)、水道橋校舎本館第1講義室

■第9回東京歯科大学公開講演会開催

平成26年10月25日(土)午後2時より、千葉校舎講堂において、第9回東京歯科大学公開講演会が、地元千葉市美浜区真砂の関係団体(真砂地区コミュニティづくり懇談会、千葉市社会福祉協議

会真砂地区部会、千葉市第31地区町内自治会連絡協議会)との共催で開催され、美浜地区を中心に267名が来場した。なお、今回の講演会も昨年同様に、平成26年4月から平成27年3月に千葉市内外含め各所で開催される「千葉市科学フェスタ2014」のサテライトイベントの一環として参加することとなった。

当日は、橋本貞充広報・公開講座部長の司会進行のもと、共催団体を代表して佐久間雄二様よりご挨拶をいただき、井上孝千葉病院長より「健康寿命/ Healthy aging 口腔の健康から健康寿命を考える」と題した講演をいただいた。講演では、歯・口の健康が全身の健康と密接に関わっているということについて、多くの写真を用いて分かりやすく解説いただいた。口腔内を健康に保つために歯科医を利用する必要性についても説明があり、熱心にメモをとる参加者が多く見受けられた。

参加者アンケートでは「大変分かり易く、興味深い講演で楽しい時間だった。とても勉強になった。」「食事のことに注意していきたい。健康への意識が高まった。」「今後も続けて欲しい。次回も楽しみにしている。」などの意見が多く寄せられた。

なお、本講演会の後に千歯祭との共催講演が行われ、こちらにも大変多くの来場者があり成功裡に終了した。



講演する井上千葉病院長：平成26年10月25日（土）、千葉校舎講堂

## ■第1回千歯祭開催

平成26年10月25日（土）千葉校舎において千歯祭（ちばさい）が開催された。これまで東歯祭で深めてきた地域住民の方々との親交を継続するため、歯科衛生士専門学校と千葉病院が主体とな

り、千歯祭を開催することとなった。

開催当日、空は深く澄みわたり、さわやかな陽気の中300名以上の方が来場された。講堂では、千葉病院の各診療科を紹介するポスター展示、歯科矯正相談、歯科衛生士専門学校生による歯ブラシの使い方説明や業者展示が行われた。正門付近では玉こんにゃく、焼きマシュマロ、駄菓子屋等の模擬店が4店舗出店し、子供連れの家族が美味しそうに食べ物を頬張る姿が見られた。

歯科衛生士専門学校では、1年生が模擬店とフリーマーケットを出店し、2年生が歯科用品のサンプルと3年生が作成したリーフレットの配布を行った。模擬店とフリーマーケットでは1年生全員が一丸となって準備を行い、焼きおにぎり、焼きマシュマロ、みそ汁、各種ドリンクを販売した。これらはいずれも好評を博し、予想を上回る売り上げを記録した。フリーマーケットは、病院職員の方々にも商品の提供にご協力いただいたことにより、バラエティに富んだ品揃えとなり、訪れた方が楽しまれている様子がうかがえた。歯科用品のサンプル・リーフレット配布では2年生が会場に立った。地域の方々の質問にも笑顔で応え、積



盛況を博した模擬店：平成26年10月25日（土）、千葉校舎講堂前



口腔清掃用具の使用方法を説明する学生：平成26年10月25日（土）、千葉校舎講堂

極的にコミュニケーションを図っている姿が印象に残った。サンプルとともに配布されたリーフレットは、3年生が事前に作成したものであるが、各ライフステージに応じた歯科に関する情報が凝縮されており、趣向を凝らした内容が来場された方の興味を引いていた。

また、千葉校舎講堂にて開催した講演会では、株式会社タニタヘルスリンク鹿沼敦子管理栄養士による「500kcalのまんぷく定食のコツー社員食堂健康セミナー」と題し、1食500kcalに抑える献立の作り方や、カロリーをコントロールするために日々気をつけておくこと等について講演いただいた。また、プロフェッショナル・チアダンスチーム東京ガールズによる「健康体操と笑顔の作り方講座」が行われ、正しい姿勢を保つための健康体操のレクチャーや、チアダンスのパフォーマンスが披露され、会場は大いに盛り上がった。

地域住民の方々から、多くの温かいお言葉をいただき、参加した学生からは充実感に満ちた表情が溢れていた。地域の方との親睦を深めただけでなく、学生生活の良き思い出の一ページになったようである。



東京ガールズによる健康体操の様子：平成26年10月25日（土）、千葉校舎講堂



講演される鹿沼氏：平成26年10月25日（土）、千葉校舎講堂

## ■第137回歯科医学教育セミナー開催

平成26年10月27日（月）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第137回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「臨床実習から臨床研修へー昭和大学歯学部における臨床実習、臨床研修への取り組みー」と題し、昭和大学歯学部歯科保存学講座 総合診療歯科学部門の長谷川篤司教授より説明がなされた。

はじめに、平成21年度に制定された昭和大学歯学部の臨床実習のコンピテンシーについて①プロフェッショナリズム②コミュニケーションとチーム医療③基礎医学・歯学の知識の習得と臨床への応用（生涯学習）④医療面接と診察⑤診断と治療⑥ヘルスプロモーションの6つから構成されていて、それらを実用化するために平成22年度からシラバスの整備と改善を行い、平成23年度から運用開始されていると紹介があった。シラバスの整備と改善の具体的な内容としては、知識領域の項目が多かった行動目標に態度領域の項目を取り入れ、全ての到達目標に対応するコンピテンシーを明示し、技能系の実習においては、ミニマムリクワイヤメントを明示するとともに、到達水準も明示することにより、知識領域の項目は知識を習得するだけでなく、患者説明を含めた「技能として使える知識」として習得できるように工夫を凝らしたとのことである。

また、現在の実習シラバスは、全ての到達目標にタキソノミー、水準表、到達水準、対応コアカリ、対応コンピテンシーが組み込まれているうえに、実習中の学生が自己評価できるようになっている。学生の自己評価により、臨床実習実施状況における教員側と学生の認識の違いが明らかになり、年々、臨床実習内容とシラバス内容の改善も進行しているうえに、中間報告を導入することにより、年度内でも臨床実習実施方法などの微調整が可能になっていると紹介があった。

この取り組みにより、昭和大学歯学部の臨床実習のコンピテンシーが改訂され、平成26年度版では①プロフェッショナリズム②コミュニケーション③チーム医療④専門的実践能力⑤社会貢献⑥自己研鑽⑦アイデンティティーの7つが卒業時に有している臨床能力として制定されていると説明があった。

つぎに、それらを実践する方略として、処置の

項目を第1層から第5層にまで分けて、それぞれの水準と対応シラバスを入れたうえで業績コードを設けたチェックリスト型電子ポートフォリオシステムについての紹介があった。それは、ログブック(診療参加型臨床実習・臨床研修連携手帳)を活用することにより、自身の経験や業績を振り返ることが出来るので、自己学習への動機づけになり、少ない症例で高い学習効果が得られると説明があった。また、平成17年度と20年度、21年度に段階的に工事をしながら運用されているスキルラボについての施設概要と電子ポートフォリオとの連携等について紹介があり、それらによって習得された臨床実習プログラムを評価する臨床実習修了時の技能試験については、特定手技の高度な技能を期待する内容ではなく、昭和大学歯学部臨床実習のコンピテンシーを鑑みて、「患者に対する全人的な配慮を基本とし、医療情報を統合して自発的な診療行動ができる能力」を評価できるように課題が設定されていて、臨床実習修了時の総括評価として担保していくことに適していると説明があった。

最後に、臨床研修としては、歯科の2大疾患である、齲蝕や歯周病のような生活習慣病に対して、時間をかけて綿密に検査をしたり、丁寧に病状の経過を聞く等、患者中心の医療を実践することにより、患者が精神的な背景などを語ってくれるなど、強固なラポール形成が行われ、ベテランの医局員では出来ない、臨床研修歯科医ならではの良好な治療成果と患者満足が得られていると報告があった。今後の目標としては、学習すべき全景が見通せて、様々な角度から振り返りが出来るように環境を整え、学生と臨床研修歯科医のモチベーションを向上させる仕組みの整備と提供に努



説明される長谷川教授：平成26年10月27日(月)、水道橋校舎本館第1講義室

めていきたいと説明があった。

当日はテレビ会議システムで市川総合病院、千葉校舎にも中継された。今回のセミナーは本学の臨床実習・臨床研修においても参考になることがあり、多くの参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。

### ■水野嘉夫理事長就任祝賀会開催

平成26年10月28日(火)午後6時30分より、パレスホテル東京「山吹」において、水野嘉夫理事長就任祝賀会が200名超の出席のもと盛大に開催された。

祝賀会は、司会を務めた一戸達也副学長の開会の辞に続き、発起人を代表して井出吉信学長の挨拶があり、来賓として清家 篤慶應義塾塾長、中原 泉学校法人日本歯科大学理事長、末松 誠慶應義塾大学医学部長、松野博一衆議院議員より、水野理事長および本学への温かい祝辞を賜った。続いて水野理事長より謝辞があり、矢崎秀昭同窓会会長の乾杯の発声で祝宴が開始となった。同時に、本学Big Band Jazz部の演奏が華を添え、ダイナミックな演奏は出席者から大変好評であり、



謝辞を述べる水野理事長：平成26年10月28日(火)、パレスホテル東京



清家慶應義塾塾長(左)と懇談する水野理事長(右)：平成26年10月28日(火)、パレスホテル東京

更に会を盛り上げていた。また、歓談中は、水野理事長の謝辞にもあった「この会がコミュニケーションの場となるように」という言葉通り、馴染みの顔や久しぶりの顔との会話が弾んだり、初対面の方と親睦を深めるなど、それぞれがこの会を有意義に楽しんでいるように見えた。

和やかな雰囲気のもと、一戸副学長の閉会の辞をもって散会となった。



和やかな祝賀会会場の様子：平成26年10月28日（火）、パレスホテル東京

### ■推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、編入学試験A、学士等特別選抜A実施

平成27年度推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜が平成26年11月8日（土）午前9時より水道橋校舎本館において実施された。推薦入学選考（指定校制含む）、帰国子女・留学生特別選抜では104名の志願者が集まり、小テスト、小論文からはじまり、最後に面接試験が行われた。また、編入学試験A、学士等特別選抜Aも同時刻に水道橋校舎本館で実施され、15名の志願者があり、小テスト、小論文および面接試験が行われた。編入学試験Aの合格者は、来年度の第2学年に、学士等特別選抜Aは第1学年に入学する。なお、合格者には11月11日（火）に合格通知が発送された。

平成27年度一般入学試験（I期）・大学入試センター利用試験（I期）は、平成27年2月2日（月）に水道橋校舎本館および大阪（TKP新大阪ビジネスセンター）、福岡（TKP博多駅前シティセンター）の3会場において実施される。

### ■第138回歯科医学教育セミナー開催

平成26年11月17日（月）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第138回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「平成26年

度 Elective Study 実施報告」と題し、4回目を迎えた Elective Study について、国際交流部長の阿部伸一教授、国際交流部委員であり教務副部長の山本 仁教授より報告が行われた。

はじめに、山本教授より今年度の Elective Study の概要として、①昨年と同様に教務部が主催し、国際交流部がコーディネートしたこと②参加学生は各学年で前年度の学業成績が上位35名の中の希望者から、「平成26年度 Elective Study 選考委員会」において選考された学生であること③選考人数は原則として第1学年から第3学年は各学年4名、第4学年から第6学年は各学年2名であったが、学年によっては定員を大幅に超える募集があり、今年度の選考学生数は上記の人数に拘らず、第1学年から第3学年で合計12名、第4学年から第6学年で6名が参加することになったと報告があった。

引き続き、第1学年から第3学年を台湾に引率した山本教授より現地での状況について報告がなされた。今年度は学生交流の時間を多く作るために、昨年より台北での滞在日数を1日多くし、自由時間を増やしたとのことであり、参加学生は事前に数回ミーティングを行い、団長と副団長を選出し、学生個人がGIOやSBOsを設定し、各自の目的を明確にしたほか、訪問先の理解を深めるために台湾の文化、歴史、風習などを調べたことについて説明があった。台北医学大学や関連病院においては、主に施設見学や講義、ディスカッションを中心にプログラムが進められたが、それぞれの施設において本学の Elective Study のための独自のプログラムが組まれたほか、見学した病院の数も昨年より増えており、これまでに築いてきた台北医学大学をはじめとする各病院との信頼関係が益々強固なものとなっている印象を受け、大変心強く感じたという報告があった。また、過去の Elective Study で本学学生と行動を共にした、台北医学大学の学生達が訪ねてきて、本学学生が台南へ移動するときに途中まで新幹線に同乗して来てくれるなど、学生交流が想像以上に活発に行われたことを感じたことについても報告があり、帰国後に本学学生に行ったアンケートの紹介では、学生間で非常に強い連帯感が生まれたことをうかがわせる感想が多かったと説明があった。

つづいて、第4学年から第6学年をアメリカに

引率した阿部教授より、現地での状況について報告がなされた。アメリカでの研修先であるタフツ大学とは、本年度、正式に姉妹校締結がなされ、教育・研究など様々な角度からの交流を推進していく中での Elective Study 開催であったと発言があった。台湾と同様に、出発前に参加学生のチームワーク構築のため、数回話し合いの場が設けられ、その中でリーダーを選出し、GIOやSBOsの設定が行われた経過の報告があり、次に研修先での学生について、タフツ大学で初日に開催された歓迎式典での Thomas 歯学部長との懇談の様子、次の日から始まった講義、病院見学などが紹介され、参加学生が積極的に研修をこなしている様子の説明があった。その中で参加学生は、日米の教育体系、保険制度などの違い、タフツ大学では学生の段階で高レベルの診療を行っていること、時間が空いている学生は、次の診療へ向けて休日でもトレーニング可能なラボでマネキンを使用し、真剣に手技の練習をしている様子などに感銘を受けたとのことであった。そして、学生の感想文、アンケート結果などの紹介があり、参加学生は今回の研修を経験し、多くのことを学んだだけでなく、今後の各自の目標設定に大きな夢を持たたのではないかと考察があった。また、今回は特に本学を卒業後タフツ大学で歯周病の専門医としてご活躍されている山本里見先生の個人診療所（ご主人も東京歯科大学卒業で、ボストン大学の補綴科で臨床と教育に携わっていらっしゃる）を見学することが出来たのは、学生たちにとっていい経験であったと報告があった。

最後に、阿部教授より、今回の取り組みを検証し、更に発展させた Elective Study を計画したいため、多くのご意見、研修先候補となり得る情報



説明する阿部教授：平成26年11月17日（月）、水道橋校舎本館第1講義室

をいただきたい旨、協力依頼があり、午後7時過ぎ盛会の内に終了した。

今回は台湾とアメリカ共に学生が事前に訪問先の学習やチームワークの形成を行っていたので、例年以上にスムーズに現地に溶け込めていたように感じた。特に台湾は過去の積み重ねがあるので信頼関係が非常に強く充実しているよううかがえた。アメリカも関係の先生方の事前準備により、現地で活躍されている本学卒の日本人の先生方との対話の機会があるなど参加学生は貴重な経験をしてくれて来たと思う。この経験を活かし、今後の歯科界を担っていく人材になってくれることを期待している。

### ■平成26年度第3回水道橋病院教職員研修会開催

平成26年11月27日（木）午後6時より、水道橋校舎本館大会議室において、平成26年度第3回水道橋病院教職員研修会が開催された。

今回は、「当院における、ここ3年間のインシデント報告の傾向」として、水道橋病院リスクマネジメント部会会長である水道橋病院歯科麻酔科半田俊之講師による講演があった。講演では、当院における近年のインシデント報告の傾向について分析し、その結果の説明等を通じて、問題点や対策等について解説を行った。

水道橋病院のインシデント報告は年々増加しており、平成23年度は170通の報告書が出されていたが、平成25年度には365通もの報告書が集まった。これは水道橋病院での事故やヒヤリハットが多くなっているわけでは無く、医療安全に関する意識の高まりにより多くの報告書が出されている結果であるとの事であった。

今回は誤飲・誤嚥、粘膜裂傷、針刺し事故に関



講演する半田講師：平成26年11月27日（木）、水道橋校舎本館大会議室

して傾向と対策について解説があった。粘膜裂傷事故は回転切削器具で起こすことが多く、左側下顎臼歯部と右側上顎臼歯部の処置をしているときに多発している。そして誤飲・誤嚥事故は、補綴物の装着や除去時に起きることが多く、針刺し事故は、術中はもちろん片付けを行うときにも発生するので注意が必要であると解説があった。

今回の研修会では、医療事故やヒヤリハットがあったときにどのように報告していくのか、そしてどのように解析していくのかについて説明があった。しかし、様々な対策をするにはたくさんの報告が必要である事も実感できた。これらのことから、些細なことでも報告していくことで患者

の安全が確保できる方策が立てられるという事が分かり、大変有意義な研修となった。

### ■平成26年度修学指導関係者・父兄個別面談会開催

平成26年11月29日(土)に第1・2学年はさいかち坂校舎、第3・4・5学年は水道橋校舎本館13階において、平成26年度修学指導関係者・父兄個別面談会が開催された。第6学年は別日程で開催された。修学指導を必要とする学生を対象に、保護者及び学生と学年主任・副主任による3者面談方式で実施された。

## 大学院ニュース

### ■平成26年度 大学院Elective Study開催

平成26年度の大学院Elective Studyは、US-Japan Forumの主催で、平成26年8月30日(土)から9月29日(月)までの「グローバルプロ養成プログラム」と同年9月13日(土)から9月22日(月)の「カリフォルニア・イノベーション研修」の2つのコースが行われた。今年は12大学(岩手大学、東北大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、東京歯科大学、拓殖大学、滋賀医科大学、京都工芸繊維大学、島根大学、徳島大学、福岡工業大学)から21名の参加があり、普段接することがない地域や異なる分野の学生達と一緒に研修を行った。

本学大学院からは、事前のインタビューにより「グローバルプロ養成プログラム」には、染屋智子大学院生(歯科理工学講座)と小島佑貴大学院生(生理学講座)が参加し、「カリフォルニア・イノベーション研修」には、高橋香央里大学院生(歯科麻酔学講座)と今村健太郎大学院生(歯周病学講座)が参加した。

「グローバルプロ養成プログラム」では短期企業

研修にて米国での研究の方法を学び、「カリフォルニア・イノベーション研修」では、スタンフォード大学、カリフォルニア州立大学バークレー校、サンノゼ州立大学の研究室訪問や学生交流、またシリコンバレーの企業訪問などを経験した。さらに日米未来フォーラムでは、米国での高速鉄道の将来をテーマに100名以上の前で英語での発表を行い、NHKテレビにて全国放送されるなど貴重な経験となった。



日米未来フォーラムでの記念写真。(左から今村大学院生、高橋大学院生、井手祐二US-Japan Forum代表、染屋大学院生、小島大学院生)：平成26年9月19日(金)



# 平成26年度 大学院 Elective Study

## 1ヶ月の研修を終えて思うこと

歯科理工学講座

大学院1年次 染屋智子

日本を離れイノベーションの地と呼ばれるシリコンバレーで研修してきた1ヶ月間、他には替え難い体験をしました。研修プログラムの参加者は年齢も専門領域もバラバラでした。彼らとの出会いは刺激的であり、時には楽しく和やかな雰囲気もありましたが、いざ研修になると批判的に意見や質問を言い合う関係となりました。例えばプレゼンテーション用のスライドを完成させ、経営学部の学生に見せたところ「下書きかと思った」と言われたこともありました。プレゼンテーションで何を伝えるかはもちろん大事なことです。どのように聞き手の興味を引かせるスライドにするかは正直なところ今まで意識してこなかったことです。彼のスライド作成の指導は朝の4時まで続きました。批判的意見を受けることは始めのうちは辛く自分の不出来に落胆することもありました。しかし研修開始後すぐに彼らの意識・心・人間性のレベルの高さは理解できましたし、話し合い意

見をぶつけ合いひとつの問題を解決していく過程でお互いを刺激し高めあえたはずですが。このような仲間との出会いはこのプログラムで得た最も大切なものでした。

参加者以外にもたくさんの出会いが溢れていました。スタンフォード大学、カリフォルニア大学サンフランシスコ校、バークレー校、サンノゼ州立大学、訪問先の企業、経済イベントなどの研修中での出会いの他、毎日通ったスーパー、バスの中、ホテルでの出会いなど数え切れません。

その中でひとつ紹介したいと思うのは、ホテルでの朝食中に話をしたアメリカ人女性との出会いです。彼女が私たちに話してくれたメキシコの漁師の話が印象的でした。

“メキシコに貧しくとも幸せに暮らしている漁師がいました。毎朝家族が食べる分の魚を釣り、家に帰って昼寝をし、奥さんとシエスタをして、子供たちと遊ぶ毎日でした。ある日アメリカのビジネスマンがその漁師の釣りを見てこういいました。「君は釣りの才能がある、その才能を生かしてアメリカでビジネスをしないか？忙しくはなる



Google本社前にて：平成26年9月15日（月）

が会社を建て従業員も雇い、いずれは必ず億万長者になれる」その後メキシコの漁師はこう聞き返しました。「お金持ちになった先はどうなるのか」と。「お金持ちになったら引退すればいい、そうしたら毎日時間はたっぷりあるのだから朝は魚を釣り、家に帰って昼寝をし、奥さんとシエスタをして、子供たちと遊ぶ毎日が送れる」これがアメリカ人の答えでした。”

この話を聞いた後、今の自分をあてはめて物語について考えてみました。結果が同じならメキシコに残るだろうか、それともアメリカへ行くだろうか。アメリカで会社を設立すれば自分のノウハウを世界に広めることができるし、新しい世界へ挑戦するという期待感に胸が刺激されるでしょう。しかし私の考え抜いた答えはメキシコに残ることでした。今の自分の状況は恵まれている、しかしその中でもっと改善が必要な部分もあるし、努力しなくてはいけないことも山ほどあります。メキシコに残って自分の能力を高め、自分の現状に満足行くようになったらきっとアメリカに行きたいと思えるはずです。その日のためには自分に今何ができるのか、何をやらなくてははいけないの



日米未来フォーラムに向けてのディスカッションの様子：平成26年9月15日（月）



日米未来フォーラムでの発表の様子：平成26年9月19日（金）

かを常に考え生活していくことにします。

正直1ヶ月の研修で自分の何が変わったのかは具体的にはわかりません。しかし帰国後はこの研修を振り返り咀嚼し、行動や意識を徐々に、時には大胆に変えていく覚悟です（9月29日帰路の機内でこの原稿を書いています）。

このような貴重な機会を与えてくださった東京歯科大学大学院、井手祐二US-Japan Forum代表、研修を支援してくださった全ての方に深謝いたします。

## Elective Study

### グローバルプロ養成プログラム研修報告

生理学講座

大学院1年次 小島佑貴

8月29日（金）から9月29日（月）の1ヶ月間、大学の御厚意により、アメリカ・カリフォルニア州海外研修の機会を得ることができました。多くのベンチャー企業や一流企業が集まるシリコンバレーにおいて、次々と産学連携プロジェクトを実現するスタンフォード大学、カリフォルニア州立大学バークレー校そしてサンノゼ州立大学を訪問することができました。

スタンフォード大学では睡眠医学研究を行っている研究室に2週間滞在し、幸運なことに世界最先端の治療および研究を行っている睡眠医療センターの医局カンファレンスにも参加することができました。私の研究テーマのひとつが睡眠時無呼吸症候群なので、その大家であるギルミノ先生に直接質問をし、研究へのアドバイスをいただけたことは非常に有意義でした。

サンノゼ州立大学での学生交流や高速鉄道フォーラム発表等の貴重な体験を短期間で数多く経験できました。ここでは日本人で初めて米国D.D.S.を取得した一井正典（いちのい まさつね）先生について記します。一井先生は熊本県出身で薩軍（西郷義軍）として西南戦争に参加した、最年少の「ラストサムライ」でした。西南戦争終了後は、時代に翻弄されながらも東京からキリスト教宣教師とともにカルフォルニア州サンフランシスコへ渡米します。当時一井先生は英語が堪能ではなく、生活するだけでも大変苦労していたと文献に残っています。しかしながら何とか異国の地で、あるアメリカ人の下で農作業を行

う仕事を与えられ奉公することとなります。この人物が、日本の歯科医療に大きな影響を与えた歯科医師であるヴァンデルボルグ先生でした。ヴァンデルボルグ先生は、今日の東京歯科大学へと続く高山歯科医学院を創設した高山紀齋先生の師でもありました。スタンフォード大学に1期生として入学する予定だった一井先生は、引退後のヴァンデルボルグ先生と出会うことで歯科医師を志すようになります。一井先生が滞在されていたロスガトスに今回私は訪れることができ、ヴァンデルボルグ先生の家やロスガトス駅跡を見て回りました。

ヴァンデルボルグ先生の下で奉公しながら、サンノゼ州立大学にて英語と基礎科目を学んだ一井先生は、フィラデルフィア・デンタルカレッジに入学します。慣れ親しんだ西海岸から東海岸へ移ったことで再び多くの苦難があったようですが、それらを克服し主席でフィラデルフィア・デンタルカレッジを卒業、米国D.D.S.を授与されます。その後はアメリカの大学歯学部で教授を務め、笑気麻酔やクラウンブリッジの技術を磨き、日本に帰国してからは技術普及に尽力されます。また、帰国後は高山歯科医学院で講師として授業を行い、天皇の治療も行う宮内省侍医寮御用掛を務めます。そんな多くのエピソードを持つ一井先生の軌跡をたどり、イノベーションを続けるシリコンバレーに滞在することで私が学べたことの1つは歴史を知ることの重要性です。歴史を学ぶことで2つの事が分かってきます。

1つ目は、歴史を振り返ることで次の未来が予測できるということです。現在多くの分野においてハードウェアからソフトウェアの時代となっており、より「モノ」の単位や世界が細かく小さ

くなってきています。そのような流れを読むことで、今後の研究やビジネスにはどういうものが求められてくるのか、ある程度予想することができます。それを十分にイメージして生まれたのが、Google GlassでありiWatchでありナノ技術を活用したバイオサイエンスです。歴史から未来を予測することでその時代に合致したものを創出し応用することができ、かつ適切なタイミングで世に送り出すことで、多くの製品や新技術が成功しています。

2つ目は、今の自分をより深く理解できるようになるということです。学部生時代、私は歯科医学史に興味を持たず、母校である東京歯科大学については日本で最初の歯学部であること以外知りませんでした。しかし、今回偉大な先輩方が非常に困難な時期を乗り越えて、歯科医療発展のために多大な努力をされ如何に貢献してきたかを、知ることができました。もし高山先生や一井先生が歯科医師を志していなかったら、今の日本の歯科医療はなかったかもしれません。その歴史の流れを知ることで、私は母校である東京歯科大学により一層の誇りを持てるようになりました。

最後になりましたが、今回このような機会を与えて下さった井出吉信学長、田崎雅和大学院研究科長をはじめ、関係各位に感謝申し上げます。またこの様な素晴らしいプログラムを構築・運営して下さいました井手祐二先生に深謝致します。



Stanford University睡眠センター施設内にて：平成26年9月12日（金）



The University of California, San Francisco歯学部校舎前にて：平成26年9月26日（金）

## Elective Study

## カリフォルニア・イノベーション研修報告

歯科麻酔学講座

大学院1年次 高橋香央里

9月中旬に大学のご厚意により、カリフォルニア・イノベーション研修に参加させていただきました。私が本研修に参加した目的は、世界に先立つ機関の在り方やその中でのリーダーシップを学ぶこと、異なる分野であっても同世代の目標を持った学生と触れ合うことでより良い自分の目標のための力にしたいこと、そして異文化の知識・価値観を学ぶことで診療時に役立てたいことでした。

世界に先立つ機関としてはGoogle、Apple、IntelやAnacore Pharmaceuticalsといったベンチャー企業、スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校、サンノゼ州立大学への訪問を致しました。それぞれの企業・大学では実際に活躍されている日本人の方や現地の方からお話を伺うことができました。どの方にも共通されてい



カリフォルニア大学バークレー校の風景：平成26年9月16日（火）



Google社 食堂にて：平成26年9月15日（月）

たのは、目標が明確であることと努力を怠らないということでした。当たり前のことであっても成し遂げることの大切さを改めて感じました。そして企業においても人と人との繋がり的重要性が重要であり、医療に携わる私たちとの共通点を発見することができました。1人で成り立つのではなくチームとしての在り方やその中での自分の在り方を学びました。

研修中は日米未来フォーラム参加に向けて毎日準備を重ね、サンノゼ州立大学の学生ともディスカッションを致しました。ディスカッションを重ねていく上で相手の考え方を学び、新しい考え方や私自身の改善すべき点を痛感させられました。特にサンノゼ州立大学の学生との交流を通して他国独自の考え方を感じ、今後の臨床に役立て得る経験ができました。また他分野に属する学生との交流であったため知識として学ぶ点もいくつかありました。本研修の参加者は学部生と大学院生両者が参加しておりましたが、どの学生も皆先の目標を持って参加しており非常に刺激を受けました。

本研修で得られたものは多数ありますが、特に重要なものとなったのがこれからの大学院の生活における新たな目標を得ることができたことです。どのように成し遂げるか、本研修でお会いした方々に倣い達成したいと考えております。

今回、このような貴重な機会を与えて下さった井出吉信学長、田崎雅和大学院研究科長をはじめ、関係各位およびこの様なすばらしいプログラムを構築された井手祐二先生に感謝申し上げます。



カリフォルニア・イノベーション研修修了証授与にて：平成26年9月21日（日）

## カリフォルニア・イノベーション研修報告

歯周病学講座

大学院4年次 今村健太郎

10日間のカリフォルニア・イノベーション研修に参加させていただきましたので報告します。本研修に参加した一番の目的は、視野を広くすることです。気づいてみると、東京歯科大学に入学してから11年が経っていました。その間、研修で開業医での臨床を経験、水道橋移転など環境変化はありましたが、東京歯科大学に守られ、周辺環境や人間関係の大きな変化は経験してきませんでした。また、歯科医師になって5年、日々の診療では拡大鏡を使い狭い口腔内を凝視し、研究では顕微鏡で細菌や細胞を観察しており、ある意味、狭い視野で生活していることを実感しています。歯科医師として更なるステップアップを図るには、グローバルな視野を広げる事が不可欠だと考えています。そこで、数多くの大学が集まり、学部も学科も異なる様々なバックグラウンドを持った学生と、シリコンバレーという世界の一流企業が集まる地で、英語を使ったディスカッションができるこの研修の事を知り参加しました。

今回の研修で心に残ったいくつかのことを紹介させていただきます。研修は、主催者である井手祐二先生による、日米の歴史やシリコンバレーについての講義からスタートしました。その中で「歴史は必ずどこかでつながっている。」という言葉が心に残り、今回の研修のキーワードになりました。日本史や世界史があまり得意ではなかった私は、「歴史」という言葉にアレルギー反応を示していました。しかし、井手先生のお話を聞いていく中で、その土地の文化、地理、民族を知ることの重要性だけでなく、歴史を知ることの面白さを感じました。なぜ、シリコンバレーが栄え、世界の一流企業が集中しているのか。シリコンバレーの“歴史”は1840年代の、いわゆるゴールドラッシュにはじまります。当時とは異なりますが、現在もなお世界各地からアメリカンドリームを求めこの地に人や会社が集まっています。このように歴史は続きます。

また、サンフランシスコ中心街のユニオンスクエアでは、東京歯科大学や日本の歯科界の歴史にも触れることができました。高山紀齋先生や日本で初めて Doctor of Dental Surgery (DDS)

を取得した一井正典先生が師として仰ぐ Dr. Daniel Van Denburgh のオフィス跡地を訪れました。現在は高級ブランドショップに姿を変えていましたが、高山先生が歩んだであろう道に立ち、先生のお気持ちを想像することで、異国の地で勉強することへのモチベーションが湧いてきました。他にも、150年以上前に福沢諭吉、勝海舟ら遣米使節団を乗せた咸臨丸が到着した地や、サンフランシスコ講和会議が行われたオペラハウスなどを見学しました。現代の日本を築くのに大きな影響を与えた地を訪れることができ、感慨ひとしおでした。

その後も、IT企業、製薬会社などの企業訪問、スタンフォード大学、UCバークレー、サンノゼ州立大学での研究室見学や学生交流、また、宿舎の会議室ではシリコンバレーで活躍する日本人のお話を拝聴しました。演者の方々も日本の携帯電話会社の元アメリカ支社長、会計士、同時通訳、研究者、文部科学省、投資家など様々でした。自分では全く持っていない角度からの切り口でのお話がとても興味深かったです。

しかし、どうしても興味が向いてしまうのはアメリカで活躍している研究者のお話でした。留学したい研究室の教授とのアポイントの取り方、日本とアメリカの実験環境の違い、ポストのやりとり、シリコンバレーで研究するメリットなどが聞けました。また、今後自分で実験計画を考えていく上でのヒントを伺ったところ、「新たな発想、発見をする為の一番の近道は、その研究の過去の論文を洗いざらい読みとき、これまでの流れを掴むことである。そうすることで更なる発展が容易に見えてくるはず。」との返答をいただきました。

帰国したら、歯周病学の「歴史」を、これまでで



Intel Museumにて：平成26年9月15日（月）

上にひもといてみたいと強く思いました。

世界トップレベルの方々のお話や、サンノゼ州立大学の学生とのディスカッション等の経験から、これまで自分の知らない世界を肌で感じ、視野を広げる経験ができました。この素晴らしい経験が、一時のものにならぬよう自分自身でじっくりフィードバックし、これからの歯科医師人生に活かしていけたらと考えています。

最後になりましたが、このような機会を与えていただいた井出吉信学長、大学院関係の皆様、また現地でご指導いただいた井手祐二先生に御礼を申し上げます。そして大学院4年目のこの時期に、本研修への参加を後押しして下さった齋藤 淳教授、ならびに長期不在でご迷惑をかけた歯周病学講座および保存科の皆様にご心より感謝いたします。



サンノゼ州立大学の学生とのディスカッションにて：  
平成26年9月15日（月）

### ■第384回大学院セミナー開催

平成26年10月22日（水）午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第384回大学院セミナーが開催された。今回は、長崎大学大学院歯薬学総合研究科 口腔インプラント学分野教授の澤瀬 隆先生をお招きして、「骨質評価が変えるオッセオインテグレーションの新展開」と題して講演頂いた。

Osseointegrationの始まりはなんであろうか。インプラント補綴は、1970年代に骨結合型インプラントとなってから、現在では重要な欠損補綴オプションの一つとなった。しかし一方で、治療学の発展が先行し、基礎医学的エビデンスの蓄積は遅れているのもまた事実である。インプラント治療に関連した骨再生が基礎研究の主流を占める

昨今で、澤瀬教授は、インプラント臨床医として、またインプラント基礎科学者として、一貫して上記のインプラント科学の根底にある本質的な問いの解明に挑戦し続けている。澤瀬教授は、Osseointegrationの開始イベントを担う細胞として、骨細胞に着目し、研究をされている。骨細胞は、骨組織内に細胞体が封入されているうえに、細胞培養の際には骨組織を模倣した三次元培養系を構築する必要があり、高度で限定的な研究手法を要求するため、その骨生物学的役割は未知な部分が多い。しかし、近年、骨細胞は、侵害刺激やメカニカルストレスを含む様々な骨組織に加わる刺激を感知し、自身の細胞突起を骨組織内に張り巡らして、細胞間のネットワークを形成しているだけでなく、破骨細胞や骨芽細胞の機能を調整する指揮者の役割を担うことがわかってきた。澤瀬教授は、家兎の大腿骨に埋入したインプラントに加えた荷重方向に相関したハイドロキシアパタイト結晶のc軸配向性の存在を示すとともに、骨細胞数が荷重を加えることにより増加すること、また、細胞体の形態が変化することを示された。現在、即時荷重モデルを用いて骨結合過程における骨細胞の機能の解明に挑戦され続けている。方向が変わらずに本質的な問いと向き合う研究姿勢は真のオリジナリティとは何かを我々に問いかけるものであった。また、このような貴重な研究内容をわかりやすく丁寧に説明くださったことから伺える真摯な姿勢など、あらゆる面において、研究者の手本となるような澤瀬教授の講演であった。



講演される澤瀬先生：平成26年10月22日（水）、水道橋校舎本館第2講義室

**■第385回大学院セミナー開催**

平成26年10月22日(水)午後6時より、千葉校舎歯科臨床研修医室において、Yonsei University 歯科矯正学講座教授 Kee-Joon Lee先生を講師にお迎えし、歯科矯正学講座末石研二教授を座長として、第385回大学院セミナーが開催された。今回は、「Integration of biology and mechanics for non-eruption」と題した講演をうかがった。Lee教授は3D-CTや歯科矯正用アンカースクリューの研究に造詣の深い先生で、歯科矯正学領域のAJODOやAngle OrthodonticsなどのJournalに数多くの論文が掲載されている。セミナーには歯科矯正学講座の先生以外にも、多くの大学院生、口腔外科、小児歯科からの参加があった。

講演では、埋伏や萌出遅延した歯に対して予知性の高い治療を行なうために、考慮すべき要因についてフォーカスをあて、生物学的要因(歯の位置や傾斜度、歯根の形成状態、年齢)や生力学的要因(3D-CTを用いた歯の三次元的な位置の把握と歯科矯正用アンカースクリューの適用)について述べられた。特に、歯を開窓牽引する際に、歯牙周囲の骨形成能を促進し、歯槽骨を含めた歯周組織を正常なものになるように配慮することが重要であるとのことであった。次に、埋伏歯や鎖骨頭蓋異形成症などの症例を通して、ankylosisの有無や埋伏した歯の位置を把握するために3D-CTが必要なこと、埋伏歯の牽引の際には歯の抵抗中心を常に念頭において、attachmentの装着部位や牽引方向を考慮に入れることなどが示された。現在、厚生労働大臣が定める歯科矯正治療に保険が適用される疾患にも埋伏を伴うものがあり、平成26年度の保険診療報酬改定で歯科矯正用アンカースクリューが保険適用になり、まさに時宜を得た講演であった。



講演されるKee-Joon Lee先生：平成26年10月22日(水)、千葉校舎歯科臨床研修医室

**■第386回大学院セミナー開催**

平成26年11月6日(木)午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第386回大学院セミナーが開催された。今回は、長崎大学大学院医歯薬総合研究科 口腔病原微生物学分野教授の中山浩次先生をお招きして「細菌黒色集落の研究から9型分泌機構・滑走運動機構の発見へ」と題して講演頂いた。

まず、*Porphyromonas gingivalis*の病原因子であるジンジパインについての解説からスタートし、その細胞外への分泌機構の解析からPorT、PorXを発見し、最終的には*Bacteroidetes*に広く認められるtype IX secretion systemの発見に至るプロセスについて詳細でわかりやすい解説をして頂いた。さらに、*Bacteroidetes*に属し滑走能を持つ*Flavobacterium johnsoniae*がこの分泌機構によって滑走能に関わるタンパクを分泌し滑走を行うメカニズムについて動画を交え説明をして頂いた。多数のタンパクの関わる複雑な分泌システムの話のはずであるが動画を交えたvisualな解説が解りやすく、非常に有益な1時間半の講演であった。



講演される中山先生：平成26年11月6日(木)、水道橋校舎本館第2講義室

## トピックス

### ■がんプロフェッショナル養成基盤推進プランが リレー・フォー・ライフ in 2014千葉に参加

平成26年9月20日(土)から21日(日)の2日間、八千代市総合運動公園において、がん患者支援チャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014ちば」が開催された。これは、アメリカで始まったがん患者、家族、支援者が地域社会と協力してがんを闘うための絆を育むためのチャリティーイベントであり、参加者は有志でチームを組み、リレー方式で患者さん(サバイバー)たちと共にグラウンドを24時間交代で歩き続ける。その間会場では、バンド演奏やゲームなどの催し物が行われて、市川総合病院は第1回目より本事業に参加し、本年も口腔がん啓発活動や水風船のイベントを行い地域交流を図っている。本年はがんプロ大学院生、口腔がんセンターのスタッフおよびオーラルメディスン・口腔外科学講座のスタッフが交代で24時間歩き続けた。

例年とは違い、天候は曇りで夜間は上着がないと寒いぐらいの気候ではあったが、無事に完歩を



無事完歩を果たした参加者：平成26年9月20日(土)、八千代市総合運動公園グラウンド



千羽鶴の贈呈：平成26年9月20日(土)、八千代市総合運動公園グラウンド

果たすことが出来た。また今年で5年連続の参加ということもあり、参加者の皆さんで作った千羽鶴を主催者の方から頂き、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的の1つである、市民活動への参加にも合致した充実した活動内容となった。

### ■高江洲義矩名誉教授が平成26年秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章

本学元副学長高江洲義矩名誉教授が、平成26年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章された。

高江洲名誉教授は、本学大学院を卒業後、昭和41年より衛生学講座に勤務し、その後、岩手医科大学歯学部教授を経て、同55年に本学教授に就任され、平成13年に定年退職となり名誉教授に就任された。その間、本学において、図書館長、学監、副学長等を歴任され、学外では、厚生省歯科医師国家試験委員会委員、厚生省歯科医師国家試験出題基準改定委員、厚生労働省医道審議会専門委員、日本歯科医学会理事、日本歯科医学教育学会常任理事、日本口腔衛生学会理事、日本老年歯科医学会理事、日本保健医療行動科学会理事等を歴任された。

長年にわたるこれらの功績が評価され、今回の受章となった。

### ■才藤純一 元市川総合病院臨床検査技師長が平成26年秋の叙勲において瑞宝双光章を受章

本学元市川総合病院臨床検査技師長、才藤純一氏が、平成26年秋の叙勲で瑞宝双光章を受章された。

才藤氏は、昭和49年に本学水道橋病院に臨床検査技師として勤務し、同54年に主任に昇任し、同56年より千葉病院に勤務、平成3年に臨床検査技師長に昇任した。平成20年に市川総合病院に配置替となり、平成25年に退職となるまで、長きにわたり臨床検査技師業務に精励した。

学外では、社団法人千葉県臨床検査技師会理事、同副会長、同会長、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会理事、同副会長を歴任された。

長年にわたるこれらの功績が評価され、今回の受章となった。



## ■平成26年度文部科学省医学教育等関係業務功労者表彰を受賞

水道橋病院 岩田周子 主任歯科衛生士  
水道橋病院 外山宗明 主任歯科技工士

歯学部・医学部及び附属病院等において、教育・研究・患者診療等に長期間従事し、顕著な功労があった者に授与される当該表彰において、本学から推薦された、水道橋病院の岩田周子主任歯科衛生士並びに外山宗明主任歯科技工士が、全国の大学等より推薦された候補者の中から、今年度の受賞者として選ばれた。

岩田氏は、昭和53年に入職し、36年余にわたり歯科衛生士業務に携わり、経験を活かした歯科医師との連携、患者との接し方など、その勤務は他の職員の模範となっている。また、水道橋病院における新規診療科の立ち上げに際して、そのスタッフとなり円滑な運営に尽力した。

外山氏は、昭和56年に入職し、33年余にわたり歯科技工士業務に携わり、水道橋病院における当該業務の中心的役割を長年にわたり担っている。また、歯科技工物作製にとどまらず、水道橋病院



受賞した岩田主任歯科衛生士：平成26年11月20日（木）



受賞した外山主任歯科技工士：平成26年11月20日（木）

の歯科技工物の外注に関する業務においても統括的役割を果たし、業務の効率化に貢献してきた。

それぞれの立場において、他の職員の模範となり、水道橋病院の発展に貢献してきたことが評価され、今回の表彰となったものである。

## ■門田和也大学院生 日本口腔インプラント学会第33回関東・甲信越支部学術大会で支部学術賞を受賞

平成26年2月8日（土）・9日（日）に開催された日本口腔インプラント学会第33回関東・甲信越支部学術大会（京王プラザホテル・東京都）において、口腔インプラント学講座の門田和也大学院生が、支部学術賞を受賞した。

本賞は、今回、48題の発表の中から研究内容とプレゼンテーションが共に優れた3演題にのみ贈られる学術賞である。受賞演題名は「低出力超音波パルス（LIPUS）の周波数の違いによる骨欠損の比較検討」であり、ラット大腿骨骨欠損モデルに対し異なる周波数でLIPUSを用い、骨欠損治療への比較検討を行った研究内容である。物理刺激を応用した超音波療法として難治性骨折の治療促進などに用いられているLIPUSは、周波数の違いにより効果の到達深度が異なる事は報告されている。今回、治療過程において異なる周波数において血餅の退縮の違いや、LIPUSにより骨欠損治療を促進することが示された。

今後インプラント臨床においてLIPUSを用いることにより、抜歯後あるいはインプラント埋入後の骨治療を促進し、治療期間の短縮化につながることを示唆された。



大会会場での矢島安朝教授（左）と門田大学院生（右）：平成26年2月9日（日）、京王プラザホテル・東京都

## ■服部雅之講師 日本歯科理工学会・発表優秀賞を受賞

平成26年10月4日(土)・5日(日)に開催された第64回日本歯科理工学会学術講演会(アステールプラザ・広島県)での懇親会において、歯科理工学講座の服部雅之講師(現 岩手医科大学教授)が日本歯科理工学会・発表優秀賞を受賞した。本発表優秀賞は、当該学術講演会で発表された口頭発表、ポスター発表の中から学会代議員の採点により選出される賞である。今春開催された第63回日本歯科理工学会学術講演会(タワーホール船堀・東京都)での服部講師の「Ti-Cr混合粉によるレーザー溶融積層造形合金の性質」と題した発表が評価されての受賞となった。

受賞対象となった研究内容は、これまでの研究から明らかになっている口腔内で高耐食性を有するチタンクロム合金と同様の組成を、金属粉末を混合し、レーザー溶融することで成形する方法について検討したものである。本研究では特に、市販のチタン粉末とクロム粉末を混合し、その混合粉末をレーザー焼結するレーザー走査速度、ハッチングピッチによりレーザーによるエネルギー密度の最適化を行った。電子線マイクロアナライザーによる分析の結果、照射条件により空隙率を0.1%とすることができ、合金化が進行していることが示唆された。このTi-Cr合金のレーザー積層造形による造形物の創製の新規性と今後への期待が高く評価された。今後は、さらなる条件の最適化を図るとともに、臨床応用への発展が熱望されている。



各受賞者(右から2番目が服部講師)と米山隆之歯科理工学会理事長(中央):平成26年10月4日(土)、アステールプラザ・広島県

## ■林 幸央大学院生 第59回 公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会で優秀ポスター賞(ゴールドリボン賞)を受賞

平成26年10月17日(金)から19日(日)に幕張メッセで開催された第59回 公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会において、口腔外科学講座の林 幸央大学院生が「ヒトiPS細胞を用いた骨再生療法に関する基礎的研究」と題した示説発表を行い、優秀ポスター賞(ゴールドリボン賞)を受賞した。これは、公益社団法人日本口腔外科学会が指定した学術委員の厳選する審査により、学術的価値が高く本学会の発展に寄与する優れた発表に対しその演題の筆頭演者に授与されるものである。

現在は、先天的・後天的な骨欠損に対し治療期間短縮、機能・審美性の回復を目的とした自家骨移植が一般であるが、移植骨量や形態の限界、術後感染や吸収、創部が増えるなど問題がある。広範囲の骨欠損に対し、安全・確実な再生療法の開発が求められている。

本学生化学講座(東 俊文教授)と口腔外科学講座(柴原孝彦教授)は次世代型骨再生医療の研究を進めている。受賞対象となった研究では、ラット骨欠損モデルを用い自己組織化ペプチド(PuraMatrix:PM)の有用性と、ヒトiPS細胞を用いた骨再生療法への可能性を検討し、PMを用いた群とiPS細胞を用いた群で有意な骨再生を認め、PMの担体としての有用性とヒトiPS細胞が骨再生療法のsourceに成りうる可能性が示唆された。



受賞した林大学院生:平成26年10月19日(日)、幕張メッセ・千葉県

## ■西宮紘子臨床専門専修科生 平成26年度公益社団法人 日本補綴歯科学会東京支部総会・第18回学術大会で優秀演題賞を受賞

平成26年11月9日(日)に昭和大学旗の台キャンパスにて開催された日本補綴歯科学会東京支部総会・第18回学術大会において、有床義歯補綴学講座の西宮紘子臨床専門専修科生が優秀演題賞を受賞した。この賞は一般口演の中から審査委員の採点により選出されるものであり、本大会では補綴学分野を中心に臨床から基礎研究まで幅広い内容の演題が発表され、参加人数は300名以上であった。

受賞演題は「N-アセチルシステインはPMMAレジン製の口腔粘膜上皮細胞に対する細胞傷害性を消去する」であり、これは主要な歯科材料であるPMMAレジン製の生体への有害性を、抗酸化アミノ酸を用いて消去することを目的とした研究である。PMMAレジンはその利便性から補綴処置をはじめとする歯科治療において頻用する材料である。しかしその溶出成分が患者や歯科医療従事者に対して皮膚・粘膜炎といった生体への影響を引き起こすことが懸念されている。この研究ではその解決策の一つとして、細胞内に存在するアミノ酸の誘導体であり、健康食品やサプリメントとして摂取されているN-acetyl cysteine (NAC)に着目し、NAC含有レジン製の細胞への有害性を様々なメカニズムから検証した結果、NACが細胞の抗酸化能を向上させ、かつ材料から溶出する有毒成分を軽減させることが示された。この研究により、NACを歯科用レジン材料へ応用することで、生体安全性の高い歯科材料の開発に貢献できることが示され、その高い科学性と、歯科補綴学領域での臨床的意義が評価され、今回受賞に至ったこ



演題発表をする西宮臨床専門専修科生：平成26年11月9日(日)、昭和大学旗の台キャンパス・東京都

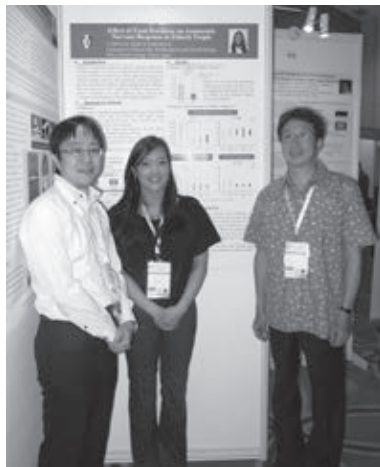
とがうかがえる。

## ■太田 緑大学院生 第1回インドネシア・日本補綴歯科学会ジョイントミーティングで補綴学会若手優秀研究者賞第3位入賞

平成26年10月30日(木)より11月1日(土)までインドネシア・ヌサドゥアにて、第1回 Indonesian Prosthodontic Society and Japan Prosthodontic Society Joint Meeting 2014が開催された。本学会は、公益社団法人日本補綴歯科学会とインドネシア補綴歯科学会の交流協定の締結に伴う第1回のジョイントミーティングであり、開会式にて調停式が行われた。参加者は日本側約80名、インドネシア側約400名であり、インドネシア補綴歯科学会会員の我が国との交流への期待の高さがうかがわれた。

この学会で、有床義歯補綴学講座の太田 緑大学院生が、若手優秀研究者賞第3位を受賞した。この賞は、82演題の抄録からファイナリストとして8題が最終選考に選ばれた。最終選考に選ばれた者は、審査員の前での口頭発表と質疑応答により評定され、受賞者が決定された。

受賞演題は「Effect of Food Hardness on Autonomic Nervous Response in Elderly People」であった。これは、高齢者における咀嚼時の自律神経活動の変化について研究したものである。自律神経活動の低下は刺激に対する反応性や、外来環境に対する順応性の低下をもたらすといわれているが、これまでの研究で高齢者は若年者と比較し



太田大学院生(中)、共同演者の櫻井 薫教授(右)と上田貴之准教授(左)：平成26年10月31日(金)、インドネシア・ヌサドゥア

て交感神経活動が低下していることを明らかとしてきた。高齢者の中には粥食など咀嚼の必要のない食品を日常的に摂取している人が存在することに注目し、常食から軟食まで硬さの違う食品を摂取した際の自律神経活動の影響について検討した。本研究では75歳以上の高齢者を対象とした研究であること、常食だけではなく咀嚼を必要としない食品も想定して研究を行ったことが評価され、また、優れたプレゼンテーション能力と適切な質疑応答を行ったことから、今回の受賞に至った。

### ■第24回日本全身咬合学会総会・学術大会開催

(大会長：佐藤 亨教授、準備委員長：宅間裕介助教)

木々も艶やかに色づき、都内も紅葉の美しい季節を迎えたなか、平成26年11月29日(土)、30日(日)に第24回日本全身咬合学会総会・学術大会が東京歯科大学水道橋校舎新館において開催されました。

昨今、マスコミなどにより全身の様々な症状と咬合などの口腔内環境との関連性が取りあげられ、歯科医が口腔内だけでなく広く全身の知識を習得し、各分野の専門家と連携をとり診療に携わる必要性が問われる時代になっています。

日本全身咬合学会は歯科医のみならず、医師、柔道整復師など全身に関わる多業種で構成されており、咬合と全身の調和を各分野から総合的に追及していく学会となっています。本大会においては本学クラウンブリッジ補綴学講座教授・佐藤 亨大会長のもと、咬合と全身の関わりを基礎的・臨床的立場から再度熟考し、各分野での地域医療に役立てていただけたらと願い「咬合の調和を考える」をメインテーマに開催されました。

本大会では特別講演、教育講演に5人の講師をお招きし、初日には特別講演として免疫学を専門とした新潟大学名誉教授・安保 徹先生より「自律神経、白血球、エネルギー生成でしる病気の成り立ち」と題して身体と病気の仕組みについて講演いただき、教育講演にて日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座教授・佐藤 聡先生の「歯周病と咬合、そして全身」と題した講演をいただきました。2日目には本学解剖学講座教授・阿部伸一先生の教育講演、法置学・法人類学講座教授・橋本正次先生の特別講演では、関節や嚥下におけ

る人体の構造や機能、その獲得における進化の過程など臨床上重要な知識を、また福岡県開業医である下川公一先生には実際の臨床における実践的な顎位決定の方法の講演をいただきました。例年を超える数の参加をいただき、各講演後は積極的な質疑応答が行われました。

最終プログラムとして佐藤大会長を司会とし、本大会のテーマである咬合、特に初診時の診断法をテーマに討論を行い、時間が延長するほど熱心に議論されました。また本大会の2日間、本学第5学年生も数名参加しておりました。

参加者の皆さんが、本大会で得られた知識を臨床に結び付けることで地域医療に多大に貢献できるものになると実感するものでありました。

(クラウンブリッジ補綴学講座 宅間裕介)



阿部教授講演風景。朝の講演にも関わらず、多数の参加いただきました：平成26年11月30日(日)、水道橋校舎新館第1講義室



佐藤大会長の司会による討論会風景：平成26年11月30日(日)、水道橋校舎新館第1講義室

### ■第4回臨床ゲノム医療学会「東京水道橋大会」開催 (大会長：金子 讓名誉教授)

平成26年11月30日(日)に水道橋校舎新館血協記念ホールにおいて、第4回臨床ゲノム医療学会「東京水道橋大会」が約200名の参加者のもと開催

されました。本学会は渥美和彦東京大学名誉教授が設立した新しい学会です。今回、歯科からというご指名を受け亀井英志副会長(本学昭和51年卒、開業)、井上孝副会長(千葉病院長)、村上聡準備委員長(臨床検査病理学講座講師)、臨床検査病理学講座、歯科麻酔学講座の陣容で運営し、メインタイトルを「予防・未病医学と遺伝子検査の今後の展望-歯・口腔と健康寿命」といたしました。本学会はこれからのゲノム医療の一つのベクトルである遺伝子、特にmRNAを指標として医科歯科薬科の連携で健康寿命を寿命に近づけることを命題としています。

今回の講演プログラムでは、池川志郎理化学研究所統合生命医学研究センターチームリーダーによる「骨関節疾患関係のゲノム」と坪田一男慶應義塾大学医学部教授による「長寿になるための遺伝子鍛錬」の特別講演、三宅養三愛知医科大学理事長による「日本の医科大学におけるゲノム医療の現状と将来への期待」、そしてその一環として福沢嘉孝愛知医科大学教授による「受診者の意識と行動変換によった新ゲノム検診システムの構築」というゲノム検査普及策、そして、ゲノム基礎研究者の池田和隆東京都医学総合研究所プロジェクトリーダーの「ゲノムの歯科医療における展開」の後に高柴正悟岡山大学医歯薬学研究所歯周病学教授からの「歯周病予防と健康寿命」を基調

講演で1セットとし、「ゲノムを歯科医療にどう生かすか」というシンポジウムに繋がるよう企画しました。村辺均三友歯科医院院長から「開業現場から何のゲノムを指標にしたら良いのか」と身近な課題を提示していただいた後に、福田謙一歯科麻酔学講座准教授が自身の「痛み」研究を含めて「歯科医療でのゲノムの現状と将来展望」を、片倉朗オーラルメディシン・口腔外科学講座教授が「唾液と口腔がん」におけるゲノム、西村仁西村歯科医院院長が「咬合療法とRNA」という多彩さで将来を予見する充実した内容となりました。学生の学会参加もみられ水道橋校舎新館での懇親会も大いに盛り上がりました。関係各位にお礼を申し上げます。

(東京歯科大学名誉教授 金子讓)



臨床ゲノム医療学会理事長 渥美東京大学名誉教授(右)と金子大会長(左)：平成26年11月30日(日)、水道橋校舎新館血協記念ホール

## 学生会ニュース

### ■卓球部創立100周年祝賀会開催

卓球部主将 杉浦 慧(2年)

平成26年8月30日(土) ホテルメトロポリタン エドモントにおいて、卓球部創立100周年記念祝賀会が開催され、多くのOBの先生方やご来賓の方々とともに現役部員20名も出席させていただきました。

東京歯科大学卓球部はまだ「卓球」が「ピンポン」と呼ばれていた大正2年に松井禮七先生を中心に「ピンポン部」として創立されました。当時ピンポン部が設置されていた大学は多くはなかったものの全国各地で開催された学生大会の全てで好成績を残し、大正14年には我が校で行われた関東代表選抜大会に澄宮殿下(大正天皇の第四皇

子、現三笠宮崇仁親王)の御台臨も予定されていきました。その後も極東オリンピック日本代表の輩出、医歯薬リーグでの連続優勝など隆盛を極め、昭和初期には学内で年2回の卓球大会が行われるほどでした。

このような素晴らしい歴史を引き継ぎ、作り上げてきた諸先輩方への尊敬は筆舌に尽くし難いものです。祝賀会では、OBの方々の他にも全日本歯科医師卓球連盟会長の安藤武雄様や井出吉信学長のお話を聞き、私自身も本学卓球部の歴史と伝統の一部であるということ再認識しました。

平成26年8月4日(月)から8月6日(水)にかけて開催されたオールデンタルでは男子団体準優勝、3年藤山、2年杉浦、1年中島の3人が個人ベ

スト16に入り、いずれも昨年を上回る成績を残すことができました。卓球は個人競技であるものの、部員一人一人の応援、歓声が試合、日々の練習において選手たちにとって大きな力となり団結力を高める一助となります。このことを見つめ直し昨年から一人一人の鍛錬はもちろんのこと、チーム全体としての底上げを意識した練習を続けることで今回のような結果を出すことが出来たと思います。

今年度、秋以降に例年参加している関東歯科学生大会、オールデンタルに加え、東日本歯科医師会主催の大会や他大学との練習試合にも積極的に参加し交流を図ることを含め、さらなる精進に努めかつて歯科大学卓球界の中心を担っていた頃の姿に少しずつ近づけていく所存です。また、その第一歩として来年のオールデンタルでは団体戦において優勝、個人戦では全員が順位を上げたいと思います。

最後に、この度貴重な経験を積む機会を与えて下さった先生方に深く御礼申し上げるとともに、これからの変わらぬご支援のほどよろしくお願いいたします。



卓球部創立100周年祝賀会：平成26年8月30日（土）、ホテルメトロポリタンエドモント・東京都

## ■空手道部が主管校で、第71回秋季関東医科歯科空手道大会を開催

空手道部 野中一穂(4年)

秋雨の降る中、平成26年11月9日（日）に第71回秋季関東医科歯科空手道大会が開催されました。この大会は私たち東京歯科大学空手道部が主管校を務めました。

本学空手道部は、約50年間続く学内有数の歴史と伝統ある部活です。現在の部員は11人、OBの数は70代から20代まで100人を数えます。

関東医科歯科空手道大会は春季と秋季の年2回

開催されています。東京歯科大学と日本大学医学部が主な発起人となり始まったということもあり、空手道部にとっては特別な大会です。

主管を務めて感じたことは、部内の信頼関係が高まったということでした。空手道部は人数が少ないため上下関係なく仲の良い部活です。しかし今回は、大会のために何度も話し合いの場を持ち、時には意見がぶつかることがあっても、大会の成功という一つの目的のためお互いに納得がいくまで意見交換や準備のための合宿も行いました。そうした過程を経て、ただの仲の良さだけでなく、信頼や尊敬といった感情が育ったように思います。さらに今までの部活動では見えなかったお互いの長所や新たな特技を発見することが出来ました。大会後は後輩が一回りも二回りも大きく、頼もしくなったように見えました。

またOBの先生方に前日、当日と駆けつけて頂き、試合から事務のことまで沢山のご助言やご支援をいただきました。OBの先生方がおられなかったら、また違ったものになっていたと思います。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。また、さらに、同級生にも応援を頼み、快く引き受けてもらいました。

本大会を以って私たち4年生は引退となりますが、後輩にはこの経験を胸にさらに成長してほしいと願うとともに、空手道部の益々の発展を願っています。



声高らかに選手宣誓をする空手道部主将 鈴木真太郎君(4年)：平成26年11月9日（日）、千葉校舎体育館

## 図書館から

### ■本学教員著書について

・石上恵一著「かむかむウオーキング」幻冬舎、2014  
 ・石上恵一、武田友孝、中島一憲著「カスタムメイドタイプ新マウスガードのつくり方」

医歯薬出版、2014

本学教員の著書についても、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようお願いいたします。

### ■阿部潤也閲覧係長 私立大学図書館協会東地区部会2014年度研修分科会にて講演

平成26年11月13日(木)、立教大学池袋キャンパス2号館(東京都)において開催された私立大学



講演する阿部潤也係長：平成26年11月13日(木)、立教大学池袋キャンパス2号館・東京都

図書館協会東地区部会2014年度研修分科会にて、阿部潤也閲覧係長が講演を行った。第5回目のテーマは「機関リポジトリについて知る」と題した内容である。本学でも進めている機関リポジトリの普及、推進のための講演であり、参加者多数となり好評であった。

### ■阿部潤也閲覧係長 平成26年度 JAIRO Cloud 講習会で講演

平成26年11月17日(月)から11月18日(火)、国立情報学研究所(東京都・千代田区)にて開催された、平成26年度 JAIRO Cloud 説明会にて、阿部潤也閲覧係長が講師として招かれ、「機関リポジトリの学内整備について」と「著作権について」のテーマで講演をした。JAIRO Cloudとは国立情報学研究所が提供する共用リポジトリである。独自で機関リポジトリを構築することが困難な機関を対象としている。

## 歯科衛生士専門学校ニュース

### ■平成27年度第I期推薦入学選考実施

歯科衛生士専門学校の平成27年度第I期推薦入学選考が、平成26年10月16日(木)に千葉校舎において実施された。これは募集人員45名中の一定数を推薦入学により入学させるものであり、本年は高等学校長の推薦により県内から64名、他県から2名の計66名と平成21年度から始めた社会人特別選抜に10名の応募があり、合計76名が受験した。選考内容は、高等学校長の推薦は書類審査と基礎学力検査および面接であり、社会人特別選抜は、自己推薦書および書類による審査と、小論文および面接であった。入学選考は、午前9時30分から始まり、午後3時にはすべてが終了した。

合格の発表については、10月17日(金)に開かれた選考委員会で決定され、同日付けで出身高等

学校長および受験生本人に通知された。

昨今の厳しい経済状況とそれともなう就職難という社会状況の中、国家試験合格率100%、就職率100%を誇る本校の実績の継続は非常に大切である。今後もその実績を基盤として、積極的な学校訪問や学校説明会の開催、平成21年度より開始した指定校推薦などの取組みを引き続き行っていく予定である。

### ■第3学年修学旅行実施

歯科衛生士専門学校の第3学年(第64期生)は、平成26年11月14日(金)に1泊2日の日程で、最近世界遺産に登録され注目が集まっている富士山方面への修学旅行に出かけた。

14日は朝8時20分に学校に集合し、井上孝校長をはじめとする教員の見送りの中、修学旅行は

スタートした。まずは歯科衛生士国家試験合格祈願のため、湯島天神に向かい、神主さんから祈祷を受けた。そして、第64期生の全員合格を願い絵馬を結んだ。その後、バスは一路富士山を目指し、東名高速道路を走った。移動中はディズニーのDVDが流れていたが、初めて大きな富士山が見えた時は車内から大きな歓声が上がった。昼食は富士山の麓のパーベキュー小屋の中で、山盛りの肉、海鮮、野菜などを溶岩でできた石の上に乗せて焼き、全員がおなか一杯になるまで食べた。その後、富士サファリパークに向かい、バスの中からライオン、ゾウ、キリンなどの生態を間近で観察した。車内は終始、歓声の渦であった。そして、夕方には本栖湖に立ち寄り、宿泊場所である下部温泉の「下部ホテル」に到着した。夜はお楽しみの大宴会が行われた。宴会では美味しい料理に舌鼓を打った後、笑いあり、涙ありの大BINGO大会、全員総立ちのカラオケ大会などが行われ、この旅行1番の熱い盛り上がりを見せた。

2日目は朝9時半にホテルの方々に見送られ、藁ぶき屋根の家が立ち並ぶ、西湖いやしの里の散策に出かけた。その後鳴沢氷穴に行き、ちょっとした洞窟探検気分を味わった。昼食でほうとう鍋を堪能した後、最後の目的地であるオルゴールの森では、オルゴールの音色に酔いしれたり、お土産を買ったりして、時間ぎりぎりまで楽しんだ。

笑顔溢れる貴重な時間を皆一緒に過ごし、クラスがさらに一致団結するきっかけとなる旅行であった。

## ■卒業研究論文発表会開催

平成26年11月20日(木)に千葉校舎講堂において、全学年の学生と論文指導の諸先生やその他の参加者を集め、3年生による第9回卒業研究発表報告会が開催された。東京歯科大学歯科衛生士専門学校では、3年制教育への移行に際して、卒業研究論文の作成を独自のカリキュラムとしてとり入れた。この卒業研究を通して、学生たちには問題発見、問題解決能力を高めることを期待している。普段の生活や、講義、実習で、疑問に持っていることなかから研究テーマとなるものを探しだし、この問題について詳細に調べ問題点を解決していく過程を学ぶ。東京歯科大学の各講座研究室および歯科衛生士専門学校の卒業研究論文担当

の諸先生のご指導により、2年以上の時間をかけて行う。具体的には、資料を調べ、論文を読み、試行錯誤しながら、研究の立案や研究方法を選択し、そして実際の実験やフィールド調査などを行ってひとつの論文にまとめ上げるのである。

発表報告会は学会形式をとり、受付から、座長、タイムキーパーなどの役割を全て3年生が受け持ち、運営された。午前9時、井上 孝校長の開催挨拶に続き、6分間のPowerPointを用いたプレゼンテーションと2分間の質疑応答が始まった。自分の研究について自信を持って発表する様や、フロアからの質問に緊張しながら答える姿は印象的で、3年間の学生生活の総まとめとして大変ふさわしいものであった。

研究テーマは基礎から臨床の広い範囲にわたっており、ブラッシングや洗口剤など口腔ケアに関する研究や、細菌学的研究、さまざまな角度からのフィールド調査、咀嚼、審美、味覚、口臭などに関する研究など非常に多彩で、興味深いものが多かった。そして、その成果は約350ページにもおよぶ厚い卒業研究論文集としてまとめられた。これは東京歯科大学と歯科衛生士専門学校の担当教員による、長時間に亘る親身な指導の賜物であり、学生たちにとっては大変貴重な経験となったと思われる。今回は千葉校舎のみならず、水道橋校舎で実験を行ったり、指導を受けに行く学生も多く、時間を有効に使いながらの研究となった。

長時間にわたる研究発表報告会は、総評の後、全員で記念撮影を行い終了となった。その後、歯科衛生士専門学校のラウンジでささやかな懇親会が開かれ、なごやかで楽しい時間を過ごし閉会した。



卒業研究論文発表会の風景：平成26年11月20日(木)、千葉校舎講堂



# 平成26年度科学研究費助成事業決定

平成26年度科学研究費助成事業は、独立行政法人日本学術振興会から、平成26年6月23日付で新規・継続採択分の配分額の決定が通知された。

本年度、本学に交付される科学研究費助成事業の研究種目別決定額および研究者別交付額は別表のとおりである。

## 平成26年度科学研究費助成事業交付決定一覧

平成26年10月1日現在

研究種目	件数	交付決定額		
		直接経費(研究費)	間接経費	合計
基盤研究(B)	2	6,400,000	1,920,000	8,320,000
基盤研究(C)	35	38,700,000	11,550,000	50,250,000
挑戦的萌芽研究	2	2,600,000	780,000	3,380,000
若手研究(B)	24	26,700,000	8,010,000	34,710,000
合計	63	74,400,000	22,260,000	96,660,000

## 科学研究費助成事業 平成26年度新規採択課題の要旨

基盤研究(C)島崎 潤 教授

### 「羊膜と間葉系幹細胞の関連性とその効果と保存」

羊膜は抗炎症作用や創傷治癒促進効果があるだけでなく血管のない免疫寛容組織として欠損組織の代替に移植されるなど、数多く臨床の場で使用されてきた。しかし、その効果や作用のメカニズムについて不明であることが多い。最近になって様々な組織で間葉系幹細胞の存在が報告されており、羊膜にもその存在が報告された。この間葉系幹細胞が羊膜の持つ効果にどのように関与しているか明らかにするため、羊膜由来間葉系幹細胞と羊膜とで眼表面上皮創傷治癒への効果を比較検討する。また、その効果を安定して保存できるように、羊膜由来間葉系幹細胞と羊膜の保存法の開発を目指す。

いない点が問題であった。本研究では、慶応大学理工学部と共同で開発してきた、撮影ビデオ画像を基にしたコンピュータ解析による三次元的表情解析システムを、顔面神経麻痺などの顔表情運動障害の診断や治療効果の評価、手術計画支援などへの臨床応用を行ない、さらには標準的な評価システムとして国内外へ普及させることを目的としている。本システムは安価・小型・高精度・定量性・簡便操作性・即時性などの利点を有した、実際の臨床に应用可能な優れた客観的評価法であり、他にも顔面神経麻痺後遺症の診断・治療評価、顔面神経麻痺のリハビリテーション、顔面痙攣(診断・治療評価)、美容外科・歯科口腔外科領域の手術(術後評価)、皺などの解剖生理、表情の心理学的解析などへの臨床応用も可能である。

基盤研究(C)田中 一郎 教授

### 「ビデオ画像の三次元的動的解析による顔面表情運動障害の診断・治療支援システムの開発」

顔表情運動障害の程度を評価するために、主観的評価法であるHouse-Brackmann法や柳原法などが広く用いられているが、細かな表情運動や外科治療後の特定領域の微細変化の評価には適して

基盤研究(C)橋本 貞充 准教授

### 「歯肉付着上皮の歯面側最表層細胞による上皮性付着の維持機構について」

辺縁性歯周炎は付着上皮によるバリア機構の消失により炎症が起これ組織が破壊される。歯肉付着上皮の防御機構では、付着上皮のエナメル側最表層のDAT細胞(cells directly attached to the

tooth) / TF細胞 (tooth-facing cells of JE) と、細胞間隙の Langerhans 細胞および末梢神経線維網が重要な役割を果たしていると考え、(1) 上皮付着の成立過程、(2) 付着上皮の修復過程、(3) Langerhans 細胞と付着上皮細胞の自然炎症への関与、(4) 付着上皮細胞間の末梢神経線維網の機能の面から、免疫染色法やフラクチャーレプリカ法、標識動物などを用いた細胞形態的手法により、一連のメカニズムの解明を目指す。

基盤研究(C) 隴田 みゆき 助教

### 「歯内療法薬が象牙芽細胞に及ぼす影響と作用メカニズムの探求」

象牙芽細胞は象牙質感覚を担う感覚受容細胞としての機能を持ち、痛みに対する侵害受容分子センサーが発現していることが知られている。歯科では、鎮痛効果の高いフェノール系薬剤が歯内療法薬として応用されるが、それらの薬剤が侵害受容分子センサーに対してどのように作用するのか、細胞に対してどのような機序で作用して効果を発揮するのかなど不明な点が多い。本研究では、象牙芽細胞にフェノール系薬剤を作用させた際の応答を、生理学的、組織学および分子生物学的手法を用いて解析する。これらの解明によって、作用点を絞った現在よりも効果的な歯内療法薬の臨床応用が可能になる。また、作用機序を明確にすることは安全性が高い新規薬剤開発にも繋がり、薬剤の鎮痛効果を利用した新たな除痛手段確立の糸口にもなる。

基盤研究(C) 見明 康雄 准教授

### 「単結晶ナノチューブアパタイトの応用」

本研究は、以前受けた科研費により単結晶ナノチューブアパタイト (中央にナノメートルサイズの孔を空けたチューブ状のアパタイト単結晶) の合成に成功したので、この結晶構造物を応用し、新たな生体材料を開発することを目的とした。単結晶ナノチューブアパタイトは、種々の物質の吸着性があり、イオンあるいはタンパク質や薬品を吸着させて生体に応用することで、これまで利用されてきたアパタイト系物質とは異なった動態を示すと考えられる。医療系では歯や骨の充填剤や薬品デリバリーシステムへの応用が考えられるが、初めに歯のアパタイト充填物および骨欠損に

対する補填物としての用途を中心に開発を行う。

基盤研究(C) 佐々木 穂高 講師

### 「終末糖化産物 (AGEs) はインプラントのリスク評価に有用か」

骨強度の低下の原因となる“骨質”がインプラント治療のリスク評価に有用であることが示唆されている。また、骨内コラーゲンの老化架橋の原因となる終末糖化産物 (AGEs) の発現が骨質を低下させ、骨折のリスクを増加させることが知られている。そこで、AGEs が高発現する糖尿病がインプラント治療のリスクとなるのは、易感染性や治癒不全だけでなく骨内の AGEs 蓄積による骨質低下がオッセオインテグレーションに影響していると考えた。本研究では Streptozocin 投与による AGEs 高発現ラットを作成し、AGEs の発現量と大腿骨に埋入したインプラントの成功率との相関性を明らかにすることで、「AGEs がインプラント治療におけるリスク評価に有用である」ことを証明することを目的とする。

基盤研究(C) 山田 将博 講師

### 「アルカリ熱処理チタン表面の歯肉線維芽細胞機能と結合組織性付着獲得に対する効果」

インプラントの粘膜貫通部の封鎖性はインプラントの長期予知性に多大に影響する。天然歯のセメント質にみられるシャーピー線維のように、内部へコラーゲン線維が入り込む結合組織性付着を獲得できるチタン表面は未だない。研究代表者らは、アルカリ熱処理により細菌よりも小さくコラーゲン線維よりも大きな三次元網目構造と付着細胞の機能を制御し得る突起を併せ持つ毛羽立ち状ナノ構造体をチタン表面上に形成させ、この表面が歯肉線維芽細胞の結合組織形成能を促進させ、表面のナノ孔にコラーゲン線維束が入り込むことで、シャーピー線維様構造と歯肉線維の走行が天然歯歯周組織に類似した結合組織性付着を獲得できることを培養試験ならびに動物実験的に証明した。この研究結果を応用することにより、チタンインプラント表面に天然歯歯周組織に類似した結合組織性付着を獲得するというブレークスルーをもたらす可能性が示唆された。

基盤研究(C)渡邊 章 助教

### 「口唇裂・口蓋裂の発症原因の追究」

口唇裂・口蓋裂は、多因子しきい説で説明されている。そして、これまでの再発危険率や罹患率などの報告から遺伝要因が強く考えられる。他人種より発症率の高い日本人口唇裂・口蓋裂を対象にした候補遺伝子の解析は、未だ不十分で明らかにされていないのが現状である。今回、我々は、ダイレクトシーケンス法を用いて、候補遺伝子の変異解析、SNPを用いてのcase-control study、TDT（伝達不平衡テスト）を行い、関連する遺伝子を明らかにすることが目的である。今回の研究は、すぐに患者の治療の役に立たないが、将来の予防や診断に大きく役立てることを期待している。

基盤研究(C)櫻井 敦朗 講師

### 「小児口腔内細菌叢の多様性と齲蝕罹患性～口腔疾患に罹患しにくい細菌叢の構築～」

近年の遺伝子解析技術により、組織、臓器中に存在する細菌叢の全容を解析することが可能になってきた。消化器や生殖器、皮膚等において、健康な状態、またはある疾患に罹患している細菌叢を比較すると、一方に特異的な細菌種が頻繁に見られることが報告されている。小児の口腔は、個体間で細菌叢のバリエーションが豊富であるが、これは齲蝕など口腔疾患への感受性に影響を与えている可能性がある。本研究では、健康な小児と個体間の多様性の少ない成人の細菌叢、さらに齲蝕に罹患した小児の細菌叢を比較することで、疾患感受性の低い、健康な状態を保ちやすい細菌叢を明らかとし、早期にそうした細菌叢を確立するための手法を検討する。

基盤研究(C)菊池 有一郎 助教

### 「歯周病原細菌のECFシグマ因子を利用した新たな歯周病予防法の開発」

これまで我々は、歯周病原細菌*Porphyromonas gingivalis*のECFシグマ因子PGN\_0274とPGN\_1740をそれぞれ変異させた株において、野生株と比べバイオフィーム形成量が増加し、両ECFシグマ因子が*P. gingivalis*のバイオフィーム形成に何かしらの影響を与えていることを明らかにしたが、その調節メカニズムに関しては依然として不明である。よって本研究の目的としてPGN\_0274とPGN\_1740の

バイオフィーム調節メカニズムについて明らかにすることを目的とする。*P. gingivalis*のバイオフィーム形成機構とECFシグマ因子の関連性が証明されれば、その分子の働きを阻害する新たな抗菌薬を創薬することが期待できる。

挑戦的萌芽研究 井上 孝 教授

### 「口腔癌特異的分子標的治療薬の開発」

従来の治療法では、CBCTや顕微鏡を使おうが、根尖病巣の治療再生には限界がある。それは原因の同定をせず、根充時期の決定、治療の判定などは術者と患者の主観により決定され、今でも再発、再治療が繰り返されているからと考える。本研究では、従来の根尖病巣の治療概念を歯内療法から脱却し、根管内からの治療のみではなく、歯槽骨開窓による治療で、病巣部の原因除去と組織再生を目指すことである。つまり、根管内と根尖病巣を別個に治療する方法が確立されれば、組織完全再生により、再発防止にもつながり、ひいては医療費の削減をもたらすその意義は大きい研究である。

挑戦的萌芽研究 新谷 誠康 教授

### 「アメロプラスチンの進化医学的研究」

エナメル質、唾液、ミルクのタンパク質遺伝子は共通の祖先遺伝子より進化したと考えられ、硬組織形成に重要な遺伝子群とともにヒト4番染色体上に巨大なクラスターを形成している。本研究ではエナメルタンパク質の発現や役割が脊椎動物の硬組織の進化に伴ってどのように変化してきたかを検討するため、アメロプラスチン (AMBN) の分子進化学的、組織学的な研究を行う。このような研究はAMBN分子が何を保存し、何を捨てて進化してきたかを明らかにし、その本態を解明する大きな助けとなる。従って、この研究は今注目されている“人の病気は進化の負の遺産である”とする考え方に則して、エナメル質形成不全症などの疾患を新たな視点で分析し、その原因の解明と治療に役立つと考えられる。

若手研究(B)佐藤 正樹 助手

### 「象牙芽細胞の膜伸展感受性イオンチャンネル-ASICsとTRPチャンネルの機能連関」

我々は象牙芽細胞が象牙細管液の移動に伴う細

胞膜の伸展を transient receptor potential (TRP) チャンネル (TRPV1, V2, V4 and A1) によって受容していることを明らかにした。しかし、これらのチャンネル阻害だけでは抑制しきれない反応があり、これらが神経系に広く発現する酸感受性・膜伸展感受性受容器、acid sensing ion channels (ASICs) の応答である可能性が示唆された。我々は象牙芽細胞を用いて ASICs・TRPチャンネルの機能連関を検討する。象牙質痛・歯髄痛だけでなく、全身における疼痛発生メカニズムを明らかにすることができると考えている。

若手研究(B)齋藤 暁子 助手

### 「リプログラム化白板症細胞における癌抑制因子 Lefty 遺伝子の発現調節機序の解明」

我々は過去の研究で癌と幹細胞の類似性に着目し、ES、iPS細胞の増殖を抑制し分化誘導に働くタンパク質 Lefty が癌細胞では癌抑制因子として働き、その発現が Lefty 遺伝子のメチル化などのエピジェネティック因子により調節されることを明らかにした。そこで本研究では、基底細胞母斑症候群および前癌病変である口腔内白板症患者由来の細胞をリプログラムし、これらの細胞における Lefty の発現とエピジェネティック因子の関連を明らかにする。さらに、リプログラム化が白板症細胞の癌化機序に及ぼす影響を検討することで、癌化の危険性のない、安全な iPS 細胞作製に役立てる。

若手研究(B)間 奈津子 助教

### 「マラッセ上皮遺残アポトーシス誘導による歯根嚢胞の新規治療法の開発」

根管治療で予後不良となる歯根嚢胞は、マラッセ上皮遺残に由来する裏層上皮の存在、真菌による根尖孔外のバイオフィーム形成が関与していると考えられる。これに対し、抗真菌薬の奏功と Jaspilakinolide によるマラッセ上皮遺残アポトーシス誘導による裏層上皮の除去が可能となれば、歯根嚢胞形成メカニズムさらにはそれを阻止する処置法の解明ができると着想した。

外科的歯内療法を行わず、難治性根尖性歯周組織炎の治療を期待できる治療法を構築することで、患者の満足度の高い歯科治療を行うことが可能であるとともに、患者の QOL を高めることが

期待できる。

若手研究(B)石井 善仁 助教

### 「増殖因子と自己組織化ペプチドを併用したインプラント周囲炎の新規治療法の開発」

インプラントは予知性の高い治療法として広く歯科臨床に応用されている。しかし、歯周病原細菌の感染、咬合性外傷などを原因とするインプラント周囲組織の喪失が問題となっている。本実験で用いる自己組織化ペプチドは生体適合性に優れ、間葉系幹細胞、PRP を併用し骨再生させた後にインプラントを埋入したとき、オッセオインテグレーションが獲得できたことが報告されている。脳由来神経栄養因子 (BDNF) は歯根膜線維芽細胞の増殖を促進させ、骨関連タンパク質発現を促進することが報告されている。以上のことから、本研究の目的は、自己組織化ペプチド、BDNF、吸収性膜を応用し失われたインプラント周囲骨欠損の治療として骨再生における有効性を検索することである。

若手研究(B)小野寺 晶子 助教

### 「Wnt阻害因子による骨分化調節メカニズムの解明」

骨粗鬆症、歯周病など骨に関わる生活習慣病が増加しており、骨再生の発展やそのメカニズムの解明を行う必要性は高い。現在、ヒト iPS 細胞において骨細胞分化誘導法を確立しており、本研究では骨粗鬆症に原因遺伝子である Sclerostin (SOST) と WNT 経路の阻害因子である DKK, SFRP に関与する情報伝達経路を明らかにし、より高度な骨芽細胞分化の誘導を行うことを目的としている。さらに唇顎口蓋裂患者、鎖骨頭蓋異形成症などの口腔内に骨欠損の症状が出る患者由来の疾患特異的 iPS 細胞を樹立し、WNT 経路阻害因子群を含む遺伝子群の発現を検討することでメカニズムの解明、薬剤の検討を行う予定である。患者由来の iPS 細胞で骨芽細胞分化を検討することは侵襲の少ない治療を提供できる可能性につながると考えられる。

若手研究(B)石井 武展 助教

### 「局所的フルバスタチン応用による新たな矯正歯科治療の検討」

スタチン製剤は全身投与により、血液中のコレ

ステロール値を低下させる働きがあり高脂血症治療薬として既に応用されているとともに、BMP2を介した骨誘導能を有する事は周知の事である。そこで、スタチン製剤を局所に応用する事により、局所にBMP2を誘導し骨造成を期待する。今回は実験動物を用いた矯正治療モデルによりスタチン製剤の局所応用の可能性を評価する。これは将来、矯正歯科治療により偶発的に惹起される歯槽骨吸収の予防および歯槽骨吸収後の治療として応用できる。もしこれが可能となれば、骨造成後に歯の移動を行うことで非抜歯治療の適応限界の定説を覆し、斬新かつユニークな新しい治療技術の可能性を秘めている。

若手研究(B) 竜 正大 助教

#### 「要介護者に対する効果的な舌の清掃法と清掃時間についての検討」

口腔清掃は全身疾患の予防にも有効であるが、要介護者は介護者のマンパワー不足もあり口腔内環境が不良であることが多い。本研究は要介護者に対する、口腔微生物の温床である舌の効果的な清掃法を確立すべく清掃器具、洗口剤、保湿剤の組み合わせと清掃時間および回数を確立することを目的とした。含嗽の不可能な入院患者を対象とし、3種の清掃器具、3種の洗口剤および2種の保湿剤を用いて舌清掃を行い微生物の除去効果について効果的な組み合わせ、清掃時間および回数を探っていく。本研究により効果的な舌清掃法、必要な清掃時間や回数の確立が見込まれ、介護者のマンパワーの適切な配置が可能になると期待される。更に、口腔清掃状態の改善と全身疾患の予防にも寄与すると予想される。

若手研究(B) 山本 昌直 レジデント

#### 「神経筋疾患の誤嚥・窒息予防を目的とした応用研究」

現在、神経筋疾患全般についての嚥下スクリーニングテストの有用性の報告はあるが、個別の疾患（パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症）についての有用性に関する報告はされていない。また神経筋疾患患者は病状の進行に伴い呼吸筋力の低下をきたすため、十分な喀出能力がなければ診療において誤嚥や窒息する危険性がある。事前に呼吸機能検査を行うことで診療を行

ううえでの誤嚥・窒息のリスクを予測できるものと考えられる。

今回、個別の神経筋疾患における嚥下スクリーニングテストの有用性を検討し、さらに呼吸機能検査による誤嚥・窒息のリスクの予測性についても検討することで、神経筋疾患における嚥下機能障害の早期発見と誤嚥・窒息リスクの評価に貢献できると考える。

若手研究(B) 中村 安孝 助教

#### 「高度変性歯牙からのDNA抽出法の確立」

歯科的個人識別において、歯牙よりDNAを抽出して行うDNA鑑定的重要性は日々増してきている。その中で、DNAを効果的に増幅する事で鑑定精度を向上させる研究は日々進歩しているが、DNA抽出操作をより効果的に行って良質なDNAを取得する事により鑑定の精度を向上させる研究はあまり行われていない。特に、DNA抽出が困難な高度に劣化した試料から、実際の鑑定に使用可能なDNAを抽出する為の研究は停滞している。本研究では歯牙からのDNA抽出操作における脱灰操作と脱タンパク操作の改善を中心として、劣化試料を対象としたDNA抽出法を確立する事を目的としている。

若手研究(B) 高野 智史 助教

#### 「異なる焼結状態で切削加工したナノZRの疲労耐久性」

ジルコニアの臨床応用にはCAD/CAM技術の応用が不可欠であり、加工効率の点から半焼結体を切削後、完全焼結するシステムがほとんどである。一方、Ce-TZP/Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>ナノ複合体（ナノZR）は、一般的なジルコニアであるイトリア安定化ジルコニア以上の優れた機械的性質を有するが、完全焼結体の切削を基本としている為、加工効率に劣る。加工手順の違いはナノZRの結晶構造の変化やマイクロクラックの発生に影響して、機械的強度が低下する可能性もある。今回、異なる焼結状態で切削加工したナノZRの疲労耐久性を明らかにすることを目的に本研究を行い、十分な機械的強度を確保した上でのナノZRの効率的な加工法の確立と幅広い臨床応用につなげたい。

## ■平成26年度科学研究費補助金研究者別交付一覧（本学研究代表者分）

平成26年10月1日現在

研究種目	直接経費 (単位:円)	研究代表者氏名	研究課題名	
基盤研究 (B)	2,100,000	吉成 正雄 教授	スタチン徐放性を制御した新機軸「母床骨改善型インプラント」の開発	
基盤研究 (B)	4,300,000	井上 孝 教授	セメント質・歯根膜複合体再生を目指した人工タンパクの開発	
基盤研究 (C)	200,000	田中 一郎 教授	ビデオ画像のコンピュータ解析による顔面表情運動障害の診断・治療支援	
基盤研究 (C)	1,400,000	比嘉 一成 助教	角膜輪部ニッチ様細胞と接する角膜輪部上皮タイニセルの解析	
基盤研究 (C)	1,200,000	石原 和幸 教授	Polymicrobial infection による病原性変化の分子機構の解明	
基盤研究 (C)	1,000,000	澤田 隆 准教授	接合上皮内側基板制御因子の探索と特定	
基盤研究 (C)	700,000	櫻井 薫 教授	コラーゲン/ $\beta$ 型リン酸三カルシウム複合体の骨伝導性と生体内崩壊性の評価	
基盤研究 (C)	900,000	矢島 安朝 教授	インプラント周囲上皮の口腔粘膜疾患に対するリスク評価法の確立	
基盤研究 (C)	600,000	柴原 孝彦 教授	次世代口腔がん検診システム・アルゴリズムの開発	
基盤研究 (C)	200,000	山本 信治 講師	口腔癌のマッピングアレイを用いた再発・転移関連遺伝子の解明	
基盤研究 (C)	900,000	片倉 朗 教授	唾液中の口腔癌関連タンパクをメタボローム解析でプロファイルする	
基盤研究 (C)	1,400,000	阿部 伸一 教授	顎顔面再建治療へ向けた上皮-間葉ハイブリッド型細胞シートの創製プロジェクト	
基盤研究 (C)	1,100,000	河野 通良 講師	非病原性天疱瘡抗体を用いた表皮特異的ドラッグデリバリーシステムの開発	
基盤研究 (C)	1,000,000	村松 敬 教授	ヒト歯髄細胞を用いた自己免疫性唾液腺炎の発症機構の解析と治療法の検討	
基盤研究 (C)	1,700,000	東 俊文 教授	間葉系幹細胞、iPS細胞を用いた骨組織再生法開発のための基礎的研究	
基盤研究 (C)	600,000	西川 慶一 講師	歯科用コーンビームCT装置を維持管理するための品質保証計画実施用ファントムの開発	
基盤研究 (C)	1,200,000	亀山 敦史 准教授	マイクロデンティストリー時代のニーズにマッチした接着性修復材料の開発	
基盤研究 (C)	900,000	田坂 彰規 講師	咬合がストレス緩和効果に影響を及ぼすか？	
基盤研究 (C)	300,000	山下秀一郎 教授	摂食・嚥下運動における Stage II transport の発現を制御する因子の検討	
基盤研究 (C)	800,000	中島 一憲 講師	ガム咀嚼が情動反応に及ぼす影響	
基盤研究 (C)	800,000	武田 友孝 准教授	水平的下顎位の変化が情動反応に及ぼす影響	
基盤研究 (C)	1,200,000	松永 智 講師	アパタイト結晶配向性を指標とした顎骨骨梁のナノメカニクス	
基盤研究 (C)	1,800,000	恩田 健志 助教	口腔癌特異的分子標的治療薬の開発	
基盤研究 (C)	700,000	一戸 達也 教授	組織血流量の制御に基づく口腔外科手術のための新しい全身麻酔ストラテジー	
基盤研究 (C)	300,000	高木多加志 准教授	顎変形症患者の手術前後の三次元形態分析と予測精度に関する研究	
基盤研究 (C)	2,000,000	齋藤 淳 教授	喫煙が歯周病原菌の宿主細胞侵入に及ぼす影響の分子メカニズム解明	
基盤研究 (C)	600,000	杉山 哲也 講師	要介護高齢者向け包括的摂食・嚥下機能評価法の開発	
基盤研究 (C)	新規採択	1,200,000	島崎 潤 教授	羊膜と間葉系幹細胞の関連性とその効果と保存
基盤研究 (C)	新規採択	1,500,000	田中 一郎 教授	ビデオ画像の三次元的動的解析による顔面表情運動障害の診断・治療支援システムの開発（補助期間1年延長）
基盤研究 (C)	新規採択	700,000	橋本 貞充 准教授	歯肉付着上皮の歯面側最表層細胞による上皮性付着の維持機構について
基盤研究 (C)	新規採択	1,900,000	陽田みゆき 助教	歯内療法薬が象牙芽細胞に及ぼす影響と作用メカニズムの探求

基盤研究 (C)	新規採択	1,900,000	見明 康雄 准教授	単結晶ナノチューブアパタイトの応用
基盤研究 (C)	新規採択	1,600,000	佐々木穂高 講師	終末糖化産物 (AGEs) はインプラントのリスク評価に有用か
基盤研究 (C)	新規採択	900,000	山田 将博 講師	アルカリ熱処理チタン表面の歯肉線維芽細胞機能と結合組織性付着獲得に対する効果
基盤研究 (C)	新規採択	1,700,000	渡邊 章 助教	口唇裂・口蓋裂の発症原因の追究
基盤研究 (C)	新規採択	1,900,000	櫻井 敦朗 講師	小児口腔内細菌叢の多様性と齲蝕罹患性 ～口腔疾患に罹患しにくい細菌叢の構築～
基盤研究 (C)	新規採択	1,900,000	菊池有一郎 助教	歯周病原細菌の ECF シグマ因子を利用した新たな歯周病予防法の開発
挑戦的萌芽研究	新規採択	1,200,000	井上 孝 教授	根尖病巣に対する挑戦的再生療法の確立
挑戦的萌芽研究	新規採択	1,400,000	新谷 誠康 教授	アメロラスチンの進化医学的研究
若手研究 (B)		800,000	国分 栄仁 助教	<i>Treponema denticola</i> の細胞侵入に関する病原性の解明
若手研究 (B)		1,800,000	武本 真治 講師	歯周病原性菌の付着によるチタン合金の初期腐食評価
若手研究 (B)		1,200,000	衣松 高志 講師	プライマリーシリアの特性を応用した新規歯周組織再生治療の確立
若手研究 (B)		1,200,000	木下 英明 講師	失敗事例の疑似体験を可能にする口腔インプラント手術シミュレーターの開発
若手研究 (B)		900,000	富田 大輔 助教	涙液中サイトカインに基づいた角膜移植後の新しい治療指針
若手研究 (B)		1,500,000	篠 宏美 非常勤講師	ヒト iPS 細胞の骨分化誘導条件の検討とその単離および in vivo での有効性
若手研究 (B)		1,100,000	木村 麻記 客員講師	アルカリ感受性 TRP チャネルを介した反応性修復象牙質形成機構の解明
若手研究 (B)		700,000	神尾 崇 講師	金属アーチファクトの無い医用立体モデル作成法の探求：低コスト高精度モデルの具現化
若手研究 (B)		600,000	松岡 海地 非常勤講師	Tenascin-C による歯髄幹細胞の活性を期待する機能性マトリックスの開発
若手研究 (B)		800,000	上田 貴之 准教授	可撤性義歯への二酸化チタンコーティング法の生体安全性と臨床評価
若手研究 (B)		500,000	田邊 耕士 助教	スタチン系薬剤の徐放システムによる顎骨再生とそのメカニズムの解明
若手研究 (B)		1,300,000	橋本 和彦 助教	ジルコニアインプラント周囲炎予防のための新規人工抗菌ペプチドの開発
若手研究 (B)		1,100,000	本間 宏実 助教	歯小囊特異的発現遺伝子 F-spondin の機能解析による歯周組織再生療法への展望
若手研究 (B)		1,200,000	大神浩一郎 講師	抗菌ペプチドディフェンシンの口腔粘膜における発現変化の検索
若手研究 (B)	新規採択	1,700,000	佐藤 正樹 助手	象牙芽細胞の膜伸展感受性イオンチャンネル-ASICs と TRP チャネルの機能連関
若手研究 (B)	新規採択	1,200,000	齋藤 暁子 助手	リプログラム化血小板細胞における癌抑制因子 Lefty 遺伝子の発現調節機序の解明
若手研究 (B)	新規採択	500,000	間 奈津子 助教	マラッセ上皮遺残アポトーシス誘導による歯根嚢胞の新規治療法の開発
若手研究 (B)	新規採択	1,200,000	石井 善仁 助教	増殖因子と自己組織化ペプチドを併用したインプラント周囲炎の新規治療法の開発
若手研究 (B)	新規採択	1,400,000	小野寺晶子 助教	Wnt 阻害因子による骨分化調節メカニズムの解明
若手研究 (B)	新規採択	2,300,000	石井 武展 助教	局所的フルバスタチン応用による新たな矯正歯科治療の検討
若手研究 (B)	新規採択	800,000	竜 正大 助教	要介護者に対する効果的な舌の清掃法と清掃時間についての検討
若手研究 (B)	新規採択	600,000	山本 昌直 レジデント	神経筋疾患の誤嚥・窒息予防を目的とした応用研究
若手研究 (B)	新規採択	1,400,000	中村 安孝 助教	高度変性歯牙からの DNA 抽出法の確立
若手研究 (B)	新規採択	900,000	高野 智史 助教	異なる焼結状態で切削加工したナノ ZR の疲労耐久性

# 人物往来

## ■国内見学者来校

### 水道橋校舎・水道橋病院

- 関東鍼灸専門学校(学生56名、教員5名)  
平成26年10月2日(木)解剖学実習室、標本室見学
- 大宮歯科衛生士専門学校(学生35名、教員3名)  
平成26年10月9日(木)解剖実習室、標本室、水道橋病院見学
- 学校法人近藤学園 さいたま柔整専門学校(学生122名、教員6名)  
平成26年10月23日(木)解剖学実習室、標本室見学
- 東京歯科大学卒業同窓会(いとし会)(昭和24年卒)  
平成26年10月27日(月)水道橋校舎新館見学
- さいたま赤十字看護専門学校(学生40名、教員1名)  
平成26年11月18日(火)解剖学実習室、標本室見学
- 東京歯科大学八紫会(昭和35年卒)(本学同窓生25名)  
平成26年11月22日(土)水道橋校舎本館、新館、水道橋病院見学
- 東京歯科大学卒業同窓会(翔仁会)(平成9年卒)(本学同窓生40名)  
平成26年11月23日(日)水道橋校舎新館見学
- 一般社団法人南埼玉郡市医師会 久喜看護専門学校(学生33名、教員3名)  
平成26年11月28日(金)解剖実習室、標本室見学

### 市川総合病院

- 公益財団法人長野市保健医療公社 長野市民病院(教職1名、職員6名)  
平成26年10月7日(火)市川総合病院見学(歯科電子カルテシステム視察)
- 昭和学院中学校(学生4名)  
平成26年11月20日(木)、21日(金)市川総合病院見学(職場体験学習)

## ■海外出張

- 白石 建教授(市病・整形外科)  
Advanced Cervical Spine Courseにおいて講演・手術指導および、シンガポール整形外科学会招待講演のため、10月6日(月)から11日(土)までシンガポールへ出張。
- 小坂橋俊哉教授、小鹿恭太郎助教、川口 潤臨

床専修医(市病・麻酔科)、佐塚祥一郎助教(歯科麻酔学)

American Society of Anesthesiologists(アメリカ麻酔学会2014)において発表するため、10月10日(金)から15日(水)までアメリカ・ニューオリンズへ出張。

- 小橋優子講師(市病・放射線科)  
International Skeletal Societyにおいて発表するため、10月13日(月)から18日(土)までイギリス・エジンバラへ出張。
- 一戸達也教授(副学長・歯科麻酔学)  
台湾歯科医学会第37回学術研討会において講演するため、10月23日(木)から26日(日)まで台湾・高雄へ出張。
- 櫻井 薫教授、上田貴之准教授、大神浩一郎講師、古池崇志助教、太田 緑大学院生、小畑朋邦大学院生、鈴木 薫大学院生(有床義歯補綴学)  
Indonesia & Japan Prosthodontic Society Joint Meetingにおいて発表および特別講演のため、櫻井 薫教授、大神浩一郎講師は10月28日(火)から11月2日(日)まで、上田貴之准教授、古池崇志助教、太田 緑大学院生、小畑朋邦大学院生、鈴木 薫大学院生は10月28日(火)から11月3日(月)までインドネシア・バリへ出張。
- 新谷誠康教授、今井裕樹講師、木村基善大学院生、荒井 亮臨床専門専修科生(小児歯科学)  
同済大学児童口腔医学研究所との共同研究のため、11月4日(火)から8日(土)まで中国・上海へ出張。
- ビッセン弘子教授(水病・眼科)  
Femto Congress 2014において講演するため、11月6日(木)から11日(火)までハンガリー・ブタペストへ出張。
- 澁井武夫講師(市病・オーラルメディスン・口腔外科学)、山内智博講師(口腔がんセンター)  
第12回日本-ボリビア国際消化器シンポジウムにおいて講演するため、11月13日(木)から19日(水)までボリビア・ラパスへ出張。
- 白石 建教授(市病・整形外科)  
第9回中国整形外科学会において招待講演のため、11月19日(水)から24日(月)まで中国・北京へ出張。
- 須賀 賢一郎講師、柴野正康大学院生(口腔外科学)、川口 潤臨床専修医(市病・麻酔科)、攝津 美枝子看護師(千葉病院 看護部)



ベトナム社会主義共和国にて口唇口蓋裂児を中心とする口腔先天異常疾患患者への医療援助、技術指導および学術調査のため、11月23日(日)

から12月6日(土)までベトナム・ホーチミン、ティエンザン省へ出張。

## 大学日誌

### 平成26年10月

- 1 (水) 1～4年生後期授業開始  
大学院入学試験(Ⅰ期)願書受付開始(～11/21)  
防火・防災安全自主点検日  
歯科衛生士専門学校1年生後期授業開始  
歯科衛生士専門学校2年生臨床実習開始  
薬事委員会(水病)  
市病フォーラム小委員会(市病)  
リスクマネージャー・ICT会議(千病)
- 2 (木) 医療連携報告会[於：血協記念ホール](水病)  
栄養管理委員会(市病)  
感染制御委員会・ICT委員会(市病)  
手術室運営委員会(市病)  
プログラム委員会(市病)  
カルテ指導委員会(千病)
- 4 (土) 第32回カリキュラム研修ワークショップ[第1日目](水病)  
市病フォーラムシンポジウム2014(市病)
- 5 (日) 第32回カリキュラム研修ワークショップ[第2日目](水病)
- 6 (月) キャンサーボード(市病)  
臨床研修管理小部会(千病)
- 7 (火) 平成26年度歯科医師臨床研修マッチング希望順位登録・修正締切  
感染予防対策チーム委員会(水病)
- 8 (水) リスクマネジメント部会(水病)  
救急委員会(市病)
- 9 (木) 午後のリサイクル(市病)
- 10 (金) ICLS講習会(市病)
- 14 (火) 1・2年生インフルエンザ予防接種  
臨床教授連絡会  
講座主任教授会  
人事委員会  
給食委員会(水病)  
購買委員会(市病)
- 15 (水) 学生部課事務連絡会  
大学院運営委員会  
大学院研究科委員会  
環境清掃日  
危険物・危険薬品廃棄処理日  
褥瘡対策委員会(市病)
- 16 (木) 1～4年生振替授業(月曜日分)  
歯科衛生士専門学校推薦入学選考Ⅰ期  
診療録指導委員会(水病)  
医療安全管理委員会(水病)  
感染予防対策委員会(水病)
- 16 (木) 個人情報保護委員会(水病)  
病院運営会議(水病)  
部長会(市病)  
CPC(市病)
- 17 (金) 歯科衛生士専門学校推薦入学選考委員会  
災害対策委員会(市病)
- 18 (土) 第298回東歯学会(総会)  
患者サロン(市病)
- 19 (日) 第298回東歯学会(総会)
- 20 (月) 臨床教育委員会  
国際交流部運営委員会  
機器等安全自主点検日  
医療安全管理委員会(市病)  
千葉病院協議会(千病)  
個人情報保護委員会(千病)  
医療安全管理委員会(千病)  
感染予防対策委員会(ICC)(千病)  
診療記録管理委員会(千病)  
衛生委員会(千病)  
業務連絡会(千病)  
医療連携委員会(千病)  
千葉病院研修会(千病)
- 21 (火) 4・5年生インフルエンザ予防接種  
5年生全体集合日  
褥瘡対策委員会(水病)
- 22 (水) 1～4年生振替授業(金曜日分)  
第384回大学院セミナー[於：水道橋校舎]  
第385回大学院セミナー[於：千葉病院]  
業務連絡会(水病)  
データ管理者会議(水病)  
医局長会(水病)  
診療録管理委員会(水病)  
糖尿病教室(市病)  
糖尿病教室カンファレンス(市病)
- 23 (木) 教養科目協議会  
教職員研修会(水病)  
管理診療委員会(市病)  
高度・先進医療委員会(千病)
- 25 (土) 第46回東歯祭(～26日)  
第9回東京歯科大学公開講演会[於：千葉校舎]  
千歯祭(千病)
- 27 (月) 第137回歯科医学教育セミナー  
NSTカンファレンス(市病)  
NST勉強会(市病)
- 28 (火) 医療監視(市病)  
診療記録・情報システム管理委員会(市病)  
医療サービスに関する検討会(千病)

- 29 (水) 1～4年生振替授業(月曜日分)  
6年生第3回総合学力試験(～30日)  
情報システム管理委員会
- 30 (木) 倫理委員会・利益相反委員会  
Ichikawa Relationship Conference  
(市病)
- 31 (金) 衛生委員会
- 平成26年11月**
- 1 (土) 防火・防災安全自主点検日
- 2 (日) 水道橋校舎本館全館停電
- 4 (火) 公認会計士中間監査(～7日、10日)  
推薦  
帰国・留学生選抜、編入生A、学士等選抜A願書受付締切  
インフルエンザ予防接種(3・6年生)  
感染予防対策チーム委員会(水病)
- 5 (水) 総合講義検討委員会  
総合講義作業部会  
薬事委員会(水病)  
リスクマネージャー・ICT会議(市病)
- 6 (木) 第386回大学院セミナー  
感染制御委員会・ICT委員会(千病)  
治験審査・倫理審査委員会(千病)  
広報編集小委員会(千病)  
プログラム委員会(千病)  
カルテ指導委員会(市病)
- 8 (土) 推薦入学選考  
帰国子女・留学生特別選抜、編入学試験  
A、学士等選抜A
- 10 (月) 臨床教育委員会  
薬事委員会(市病)  
千葉病院協議会(千病)  
個人情報保護委員会(千病)  
医療安全管理委員会(千病)  
感染予防対策委員会(ICC)(千病)  
診療記録管理委員会(千病)  
衛生委員会(千病)  
業務連絡会(千病)  
千葉病院研修会(千病)  
臨床研修管理小部会(千病)
- 11 (火) 臨床教授連絡会  
講座主任教授会(推薦、帰国・留学生選抜、編入学A、学士等選抜A合格判定を含む)  
人事委員会  
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会  
公認会計士中間監査(～14日)(市病)  
購買委員会(市病)  
研修管理委員会(市病)
- 12 (水) HBワクチン接種(1・4学年)  
基礎教授連絡会  
大学院運営委員会  
大学院研究科委員会  
リスクマネージメント部会(水病)
- 12 (水) 救急委員会(市病)
- 13 (木) 手術室運営委員会(市病)  
高度・先進医療委員会(千病)
- 14 (金) 5年生全体集合日  
教職員インフルエンザ予防接種1日目  
衛生士専門学校3年生修学旅行(～15日)  
ICLS講習会(市病)
- 15 (土) 環境清掃日  
危険物・危険薬品廃棄処理日  
患者サロン(市病)
- 17 (月) 第138回歯科医学教育セミナー  
医療安全管理委員会(市病)  
NSTカンファレンス(市病)  
NST勉強会(市病)  
キャンサーボード(市病)
- 18 (火) 理事会  
評議員会(臨時)
- 19 (水) 東京歯科大学水道橋校舎本館西棟建設工事安全祈願祭  
教職員インフルエンザ予防接種2日目  
情報システム管理委員会  
輸血療法委員会(市病)  
CPC(市病)
- 20 (木) 学生部課事務連絡会  
機器等安全自主点検日  
診療録指導委員会(水病)  
医療安全管理委員会(水病)  
感染予防対策委員会(水病)  
個人情報保護委員会(水病)  
病院運営会議(水病)  
部長会(市病)
- 21 (金) 大学院入試試験(I期)願書受付締切  
図書委員会  
災害対策委員会(市病)  
医療連携協議会(千病)
- 25 (火) 診察記録・情報システム管理委員会(市病)
- 26 (水) 業務連絡会(水病)  
データ管理者会議(水病)  
医局長会(水病)  
診療録管理委員会(水病)  
糖尿病教室(市病)  
糖尿病教室カンファレンス(市病)  
褥瘡対策委員会(市病)  
千葉市保健所立入検査(千病)
- 27 (木) 1～4年生振替授業(月曜日分)  
倫理委員会・利益相反委員会  
教養科目協議会  
水病教職員研修会(水病)  
管理診療委員会(市病)
- 28 (金) 衛生委員会  
教務部(課)事務連絡会
- 29 (土) 修学指導関係者・父兄個別面談会  
(1～5学年)

## 東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充（委員長）

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 鎌田美樹 椎名 裕 中村弘明  
 日塔慶吉 長谷川玲奈 旗手重雅 久永竜一 藤倉隆行 前田健一郎  
 百崎和浩 山本祐樹（平成26年11月現在）



### 編集後記

第46回東歯祭が水道橋新館で開催されました。血協記念ホールでの、管弦楽やBig Band Jazz、M.L.Sの演奏、ダンスや演劇部の公演。美術部や写真部などのクラブ、そして海外との学生交流の展示。スポットライトに映し出された舞台の上で、繰りひろげられた女装コンテスト。さまざまな表現の仕方、普段の自分とは違う自分を、もうひとりの自分が演じ、解放する。日常ではない空間の中で、日常の思いをぶつける時間。

同じ時、千葉では小さなお祭りが開かれていました。第9回東京歯科大学公開講演会とそれに合わせておこなわれた「千歯祭」と銘打った、千葉病院と歯科衛生士専門学校模擬店やポスター展示。千葉キャンパスでの賑やかな東歯祭はなくなってしまったけれど、地域の人たちには、ちょっとした秋のお祭りのイベントになりました。

大学院 Elective studyとして、グローバルプロ養成プログラムのカリフォルニア・シリコンバレーでのひと月の研修に参加した染屋智子さんと小島佑貴さんたち、4人の大学院生。シリコンバレーの先端的な空気の中で、最新の研究に触れ、一流といわれる人たちの話を聞き、自分の目で確かめ、指で触れるライブな体験。

未来を見つめる先にある、過去の歴史との連綿としたつながり。歴史を振り返り、検証することで開けていく新しい未来。そして、百数十年前に確かにそこにいた、誇れる先達の足跡。

日本の各地から集まってきた、さまざまな分野の大学生や大学院生たちと、率直に話し、自分の意見をぶつけ、問題を解決する過程のなかで互いに刺激し合った経験は、一人ひとりの心の中に新しいネットワークの芽を張り巡らせながら、彼らのこれからの人生にどんな違いを生み出していくのでしょうか。

さて、貧しくとも幸せに暮らしているメキシコの漁師になるのでしょうか。それとも、お話に出てきたアメリカ人ように、新しい世界に挑戦して自分の世界を開拓し、それから、ゆっくりとした家族との幸せな時間を過ごすことを選ぶのでしょうか。

（広報・公開講座部長：橋本貞充）



華やかな賑わいのなかで、祭りは終わり、そして、日常の時間へと戻っていきます。  
 第46回東歯祭 フェスティバル2014。